

## ME/u:/ と ME/ɔu/ の融合について

平 郡 秀 信

### 1. 序論

EModE 期の StE の発音に関しては、Kökeritz は主として脚韻を資料に、Dobson は正音学者の陳述を資料にしたため、自ずと両者の推定結果には大きな開きがある。Kökeritz は証拠と矛盾することなく考えられるものの中で最も進んだものを、Dobson は最も古いものを推定し、両者の推定結果はいわば両極で対峙している。しかし、高母音の ME/u:/ の発達過程<sup>1</sup>に関しては細部は多少異なるにしても、大筋において両者は珍しく同じ見解を採っている。両者の見解が同じで、意見の対立がない程、あらゆる証拠が同じ結果を指しているのであれば、特に問題はない。事実、Kökeritz も Dobson も共に ME/e:/, ME/o:/ が1500年までにそれぞれ [i:], [u:] に高母音化されていたと考えている。このことについては異論の出る余地がない程に、十分な証拠の裏付けがある。しかし、ME/u:/ の発達過程に関しては、両者は共に同じ見解を採っているが、その証拠は決して充分ではない。というよりも、証拠はむしろそれとは違ったものを示していると思われる。今日までに ME/u:/ の発達過程に関して次の三つの見解が提唱されている<sup>2</sup>。

- I ] ME/u:/ が二重母音化し、lowering が完了した後で、centralization が生じた (Ellis-Wyld 説),
- II ] ME/u:/ が二重母音化し、先ず centralization が生じ、その後で lowering が生じた (Dobson-Kökeritz 説),
- III ] ME/u:/ が二重母音化し、先ず lowering が生じ、その後で centralization が生じ、その後で再び、lowering が生じた (Chomsky-Halle, 荒木, Lass, 平郡説)。

ME/u:/ の発達過程を考察する上で極めて重要な脚韻である ME/u:/ : ME/ɔu/ (brow : grow) が16～18世紀の詩人の作品の中に数々見出されている。PE では ME/u:/ : ME/ɔu/ = [au] : [ou] となり、不完全韻となる。一見不完全韻と思われるものが、当時の正音学者の証言、臨時綴字の証拠によって正当であると判明する場合がある。この脚韻は現代と同じように16～18世紀でも不完全韻であったのだろうか。それとも何か別の説明が可能なのであろうか。本稿の目的は古音推定法の三つの資料を再検討すると共に新たに近似曲線という視点から、ME/u:/ と ME/ɔu/ の融合問題を

考察することにある。

## 2. 証拠の検討

再検討の具体的な作業はEModE期のME/u:/とME/ɔu/の融合を考察するのに役立つ臨時綴字、正音学者の証拠を研究書から、脚韻の証拠を、原資料から収集し、それらを整理することから始める。

### 2. 1. 臨時綴字

Wyld (1936<sup>3</sup>, p. 230), Zachrisson ((rpt.) 1971, p. 79) は15世紀の文書にME/u:/をauと綴った臨時綴字が見出されることを報告している。

#### 1) ME/u:/をauと綴った臨時綴字

abaught(about), faunde(found), withaute(without)(Paston Letters, 1440-70), aur(our) (Cely Papers, 1473-88), sauth(south)(Register of Godstow, 1450), faul(foul)(More, 1478-1535), haw(how), naw(now)(Tyndale, 1494-1536), hause(house)(Henslow's Diary, ?-1616).

#### 2) ME/u:/をoo, oと綴った臨時綴字

shoot(shout), beholds(behowls)(Shakespeare, 1564-1616).

#### 3) ME/u:/をuと綴った臨時綴字

husband(OE hūsbonða), huswife, punne(pound), unhuzled(unhouseled)(Shakespeare).

15世紀のPaston Letters, Cely PpersにはME/u:/ > [uw] > [ʌu] 説にとって有利に働くME/u:/をauと綴った臨時綴字が見出されている。しかし、Dobson (1968<sup>2</sup>, § 160 Note 3)によると、1)の臨時綴字は筆跡上oとaがよく似ているため、ouをauと書き違えただけのものであり、Paston Letters, Cely Papersからのものは、もしそれらが正しいものであるならば、東部方言ではME/u:/がStEよりいち早く[ʌu]又は[əu]になったものであり、方言音に依存するものと見るのが正しいと思われる。Kökeritz (1953, p. 247)は2)の臨時綴字を植字工の原稿の見間違いによるもの、3)はME/u:/ > 単母音化 > ME/u/と考えている。今までのところ、ME/u:/の標準英語の音価を推定するための明確な臨時綴字は見出されていない。ME/u:/をouと綴った臨時綴字の発掘が今後の課題として残されている。しかし、見出されたとしても方言音に依存する確率が高いであろう。

### 2. 2. 脚韻

Jordan (1934<sup>2</sup>, § 280) は15-16世紀にME/u:/=[uw] > [ou] 説にとって有利に働くME/u:/:ME/ɔu/を挙げている。

allowe : growe, avowe : flowe (Palladius on Husbandrie, 1420), bowe : knowe (Lovelich, Henry: History of the Holy Grail, 1450), about : nought, stout : brought (Siege of Troy, 15世紀初め) Kökeritz (1953, p. 245) は Shakespeare の作品に ME/u:/ : ME/ɔu/, ME/u:/ : ME/ɔ:/, ME/u:/ : ME/o:/ が見出されることを報告している。

1) ME/u:/ : ME/ɔu/

a) allowing : growing (WT 4.1.15-16)

bowing : growing (T 4.1.112-3)

cow : low (MA 5.4.48-9)

fowls : controls (CE 2.1.18-19)

fowls : souls (CE 2.1.22-3)

b) brow : glow (VA 337-39)

brow : grow (VA 139-141)

brow : mowe (S 60.10-12)

town : known (H8 pr.23-24)

a) は無韻詩形の間からのものであるが、明らかに韻を踏んでいる箇所からのものである。b) は韻文からのものであり、a, b) 共に、ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻であることには間違いない。Kökeritz は ME/u:/ : ME/ɔu/ が時々見出されるにも拘らず、「これらは疑いなく伝統的脚韻である」として、ME/u:/ の音価を推定する証拠から除外している。ME/u:/ = [Λu] であったという前提のもとでは、ME/u:/ : ME/ɔu/ を伝統的脚韻として処理する以外にこの脚韻を証拠から取り除く方法はなかったからである。

2) ME/u:/ : ME/ɔ:/

down : bone (TC 5.8.11-12 但し無韻詩形の間からのも)

Shakespeare は無韻詩形の台詞において、scene の終わりを知らせるために、最後の2行又は数行に heroic couplet を用いている。しかし、規則的というわけではない。まして中間の行からのものはそれ自体脚韻と見ること自体が問題である。これは Kökeritz が挙げている ME/u:/ と ME/ɔ:/ の唯一の脚韻である。彼は ME/u:/ : ME/ɔ:/ が既に Marlowe に見出されているところから、Shakespeare の ME/u:/ : ME/ɔ:/ は伝統的脚韻になっており、従って、Shakespeare の発音の面からは音的に不正確であると処理している。しかし、ある脚韻を伝統的脚韻と見なすにはかつては完全韻であったことの裏付けが必要である。以前には存在せず、EModE 期になって初めて出現する脚韻を疑いなく伝統的脚韻とするのは牽強附会の印象を拭えない。筆者は ME/ɔ:/ の [ɔ:] > [o:] は多分、既に、16世紀後半までにおこり始めていたが、標準英語で広く受け入れられるようになるのは17世紀後半であると想定しているので、ME/u:/ : ME/ɔ:/ は [ou] : [ɔ:] 又は [o:] の類韻となり、ME/u:/ = [ou] の証拠となる。Kökeritz (1953, p. 231) よると、中・東部方言では ME/ɔ:/ は

[u:] となっているので、これらの方言では ME/u:/ : ME/o:/ は [u:] に依存する完全韻ということになる。Dobson は ME/u:/ : ME/o:/ には言及していない。

### 3) ME/u:/ : ME/o:/

crown : noon (J 4.2.151-2 但し無韻詩形の間からのも)

これは Kökeritz が挙げている ME/u:/ と ME/o:/ の唯一の脚韻である。ME/u:/ の EModE 期の音価は [Λu] であったと想定している Kökeritz (1953, p. 246) は crown : noon の説明に窮することになる。そこで彼はこれは地方色を出すために Peter of Pomfret が Yorkshire 出身であることを示すために crown をわざと北部方言の [u:] で発音させ、noon の [u:] と押韻させたものであると想定している。

地口・同音反復も古音推定の一つの資料であるが、Kökeritz は Shakespeare に見出される fool-foul-fowl の同音反復を「foul (fowl) の二重母音化されていない(北部の)異形 [fu:l] がロンドンの人々にこのような地口を捉えるに足るほどよく知られていたか、或いは fool の [u:] か、又は、foul の [əu] の何れかがある程度ゆがめた発音が用いられたか、その何れかを意味するものであろう」と解釈している。Kökeritz がこの同音反復・地口をこのように扱うのは、彼の見解では、ME/u:/ は [Λu] になっており、ME/u:/ の ModE 期の音価 [wu] が Shakespeare の時代に存続していた筈がないからである。しかし、この証拠を [wu] が古風な発音として存続していて、その発音を利用したものと解釈することも十分可能である。

## 2. 3. 正音学者の陳述

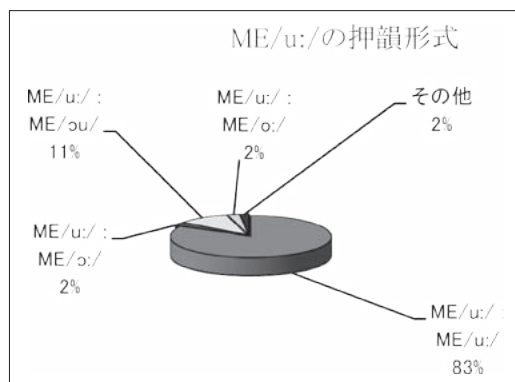
Dobson (1968<sup>2</sup>, § 160) によると、16世紀の正音学者で、ME/u:/ に言及しているのは Salesbury (1547) と Hart (1569) の2人だけであり、Hart は ou と転写し、Salesbury はウェールズ語の ow と比較している。17世紀の正音学者の内、Gil (1621) は ou と転写し、Hexham (1641) はオランダ語の ow と、Sanford (1604), Sherwood (1632), Smith (1674) はフランス語 aou と比較している。Wallis (1653), Wilkins (1668), Cooper (1685) は明確に [Λu] を示している。北部人 Levins (1570), Mulcaster (1582), Poole (1657) は ME/u:/ の二重母音化を示しておらず、ME/u:/ = [u:] の証拠しか提出していない。通時的には ME/u:/ = [ou] の後で、[Λu] の証拠が見出されるようになるというよい。にもかかわらず、ME/u:/ の発達過程に [ou] の段階はあり得ないと想定している Dobson はこの Hart, Gil の ME/u:/ の ou という転写を「[ou] の音を示しているように見える同音視は不正確であるに過ぎない。その原因は次の三つに帰せられるであろう：(a) 普通の綴字の ou；(b) 強勢のない音節では文字 o はしばしば [Λ] または [ə] の音価であったという事実；(c) 中舌母音 [Λ] を記述することが困難であったこと」とし [əu], [Λu] と解釈している。事実そうであったかも知れない。Dobson のこの説明は、ME/u:/ が他の証拠から [ou] ではなく [əu], [Λu] であることが確実である場合には、ME/u:/ を ou と転写した理由を説明すの

に役に立つ。しかし、ou という転写は [ou] の表音綴字である以上、ou から [ɔu] の可能性を排除する根拠にはなり得ない。ME/u:/ を ow と転写した後で、ME/u:/=[ɹu], [ɔu] の証拠がくるという正音学者の証拠と EModE 期から ME/u:/ : ME/ɔu/ が見出されるという脚韻からの証拠は同じ結果 ([ou] の後で [ɹu] がくる) を指し示しているといつてよい。

## 2. 4. 脚韻の収集と分析

次の円グラフは筆者が調査した16-18世紀の各詩人に見出される自由位置の ME/u:/ を含む全脚韻の中で ME/u:/ の rhyme-mate とその相対頻度を示したものである。ME/u:/ は EModE 期以降 ME/u:/ だけでなく、ME/o:/, ME/ɔ:/, ME/ɔu/, その他<sup>3</sup>と押韻している。押韻率の点では ME/u:/ : ME/u:/ のそれ (83%) が一番高く、以下 ME/u:/ : ME/ɔu/ (11%),

円グラフ 1 ME/u:/ の押韻形式



ME/u:/ : ME/ɔ:/ (2%), ME/u:/ : ME/o:/ (2%), その他 (2%) の順になっている。標準英語では ME/u:/ : ME/ɔu/ (brow : show, now : grow) は [ou] : [ɔu] 又は [o:] の類韻, ME/u:/ : ME/ɔ:/ (allow : so, down : sone) は [ou] : [ɔ:] または [o:] の類韻, 若しくは方言での [u:] に依存する完全韻である。ME/u:/ : ME/o:/ (allow : do, crown : noon) は [uw] : [u:] の類韻, 若しくは北方方言での [u:] に依存する完全韻である (Kökeritz, 1953, p. 246)。

次の表は16-18世紀の各詩人に見出される自由位置の ME/u:/ と ME/u:/, ME/ɔu/, ME/ɔ:/, ME/o:/, その他の脚韻の実数を示したものである。

表 I ME/u:/ の押韻形式

	ME/u:/ : ME/u:/	ME/u:/ : ME/ɔ:/	ME/u:/ : ME/ɔu/	ME/u:/ : ME/o:/	その他	備考 出身地
T. Wyatt (1503-42)	57	0	0	6	0	Kent
H. Howard (?1517-47)	12	0	1	0	0	Suffolk
G. Gascoign (c.1535-77)	114	0	1	3	6	Essex
G. Turberville (?1540-1610)	58	0	3	2	0	Dorsetshire
E. Spenser (1552-99) Sc	29	0	0	2	0	London
Fairy Queen 1 卷	157	4	0	0	7	
Fairy Queen 2 卷	145	2	1	0	25	
Fairy Queen 3 卷	135	16	2	0	12	
Fairy Queen 4 卷	145	9	2	0	4	

Fairy Queen 5 卷	137	6	0	0	8	
Fairy Queen 6 卷	145	10	3	5	3	
Minor Poems	158	3	4	5	1	
W. Raleigh (1552-1618)	16	0	2	0	0	Devonshire
P. Sidney (1554-84)	67	0	0	0	3	Kent
J. Lyly (?1554-1606)	50	0	0	1	1	Kent
. Warner (1558-1609)	131	1	1	1	0	Oxfordshire
G. Chapman (?1559-1634)	149	0	30	1	0	Hertfordshire
R. Southwell (1561-95)	28	0	0	3	0	Norfolk
S. Daniel (?1563-1619)	228	0	110	2	3	Somerset
M. Drayton (1563-1631)	338	8	21	0	0	Warwickshire
C. Marlowe (1564-93)	56	1	3	2	0	Canterbury
W. Shakespeare 韻文のみ	79	1	5	1	1	Warwickshire
W. Shakespeare 全 data	144	1	10	1	1	
T. Campion (1567-1620)	31	1	2	0	0	Holborne
J. Davis (1569-1626)	41	0	0	0	0	Wiltshire
J. Donne (1572-1631)	98	2	4	0	1	London
B. Jonson (1572-1637)	138	1	4	0	0	London
J. Hall (1574-1656)	17	2	11	3	1	Leicestershire
J. Marston (1576-1634)	32	0	2	0	0	Oxfordshire
E. Stirling (1580-1640)	572	8	23	0	7	Scotland
R. Corbet (1582-1635)	31	0	0	0	0	Surrey
P. Fletcher (1582-1650)	107	0	19	0	3	Norfolk
J. Beaumont (1583-1627)	80	0	0	0	0	Leicestershire
F. Beaumont (1584-1616)	42	0	2	2	0	Leicestershire
W. Drummond (1585-1649)	122	2	18	2	4	Sotland
J. Ford (1586-1639)	21	0	2	0	0	Devonshire
F. Kynaston (1587-1642)	69	5	12	0	1	Shropshire
G. Fletcher (?1588-1623)	52	2	9	1	2	Suffolk?
W. Browne (?1591-?1641)	155	1	6	0	1	Devonshire
R. Herrick (1591-1674)	145	1	3	1	0	London
G. Herbert (1593-1633)	75	0	2	1	2	Montgomery
H. King (1592-1669)	36	0	2	0	0	Buckinghamshire
T. Carew (1594-1639)	44	0	8	0	0	Kent
J. Chalkhill (fl.1600)	55	3	7	2	2	?
S. Marmion (1603-39)	21	1	3	0	0	Northampton

E. Benlowes (1603-76)	68	3	13	2	0	Essex
W. Harbington (1605-54)	32	0	0	1	0	Worcestershire
J. Davenant (1606-68)	66	3	42	0	0	Cambridge
E. Waller (1606-87)	68	5	20	5	1	Oxford
W. Bosworth (1607-50?)	44	0	3	0	0	Hertfordshire
J. Milton (1608-74)	47	1	3	0	0	London
J. Suckling (1609-41)	29	0	0	2	0	Norfolk
N. Whiting (?)	59	2	2	0	0	?
S. Godolphin (1610-42-3)	8	3	1	0	1	Cornwall
R. Cartwright (1611-45)	50	0	15	2	1	Gloucestershire
S. Butler (1612-80)	175	24	50	38	32	Worcestershire
R. Crashaw (1613-49)	97	3	10	10	2	London
J. Cleveland (1615-69)	30	2	1	1	1	Leicestershire
J. Denham (1615-69)	50	2	9	0	0	Ireland
R. Lovelace (1613-58)	69	2	7	7	0	Kent
A. Cowley (1618-67)	204	8	65	8	0	London
E. Sherburne (1618-1702)	34	1	0	0	1	Essex
W. Chamberlayne (1619-89)	208	0	0	0	0	Dorsetshire
A. Brome (1620-66)	121	1	12	4	2	?
A. Marvell (1621-78)	45	0	1	0	0	Yorkshire
H. Vaughan (1622-95)	117	2	91	8	2	Wales
T. Stanley (1625-78)	14	2	1	0	0	Hertfordshire
P. Hannay (died 1629?)	51	3	0	4	2	Scotland
J. Hall (1627-56)	11	2	11	2	0	Durham
C. Cotton (1630-87)	97	1	22	2	0	Stafford
K. Philips (1631-64)	62	1	24	0	0	London
J. Dryden (1631-1700) 1 卷	193	3	28	8	3	Northamptonshire
2 卷	352	11	39	12	5	
3 卷	365	12	55	16	9	
4 卷	259	15	28	13	3	
E. Roscommon (c.1633-85)	24	0	0	0	0	Ireland
T. Sprat (1636-1713)	16	5	9	12	1	Devonshire
T. Flatman (1637-88)	57	4	29	9	4	London
E. Dorset (1638-1706)	6	0	0	0	0	Dorset
P. Ayres (1638-1712)	41	0	1	0	0	Nottinghamshire
T. Shadwel (?1642-92)	57	9	19	9	5	Norfolk

E. Rochester (1647-80)	53	3	12	4	1	Oxfordshire
J. Sheffied (1648-1721)	26	1	13	2	0	Suffolk
T. Otway (1651-85)	27	0	7	2	2	Sussex
P. Carey (fl.1651)	21	0	2	0	0	?
W. Hammond (fl.1655)	13	0	5	1	0	Kent
R. Blackmore (?1655-1729)	49	2	23	3	2	Wiltshire
R. Duke (1658-1711)	22	3	15	5	0	London
E. Halifax (1661-1715)	9	4	0	1	1	Northamptonshire
S. Garth (1661-1719)	28	1	15	8	3	Yorkshire
G. Stepney (1663-1707)	14	0	9	1	0	Westminster
W. Walsh (1663-1708)	9	2	6	0	0	Worcestershire
W. King (1663-1712)	62	1	12	6	5	London
M. Prior (1664-1721)	161	10	31	12	12	Dorsetshire
J. Pomfret (1667-1702)	43	2	3	1	0	Bedfordshire
G. Granville (1667-1735)	58	6	4	9	4	Devonshire
J. Swift (1667-1745)	316	1	13	1	0	Dublin
W. Congreve (1670-1729)	61	0	13	0	0	Yorkshire
T. Yalden (1671-1736)	59	6	19	9	6	Devonshire
E. Smith (1672-1710)	5	1	1	0	0	Worcestershire
N. Rowe (1673-1718)	38	3	19	1	3	Bedfordshire
J. Addison (1673-1719)	75	3	5	3	1	Wiltshire
I. Watts (1674-1748)	107	10	11	8	6	Southamptonshire
W. Somerville (1675-1742)	95	7	39	7	2	Gloucestershire
A. Philips (c.1675-1749)	40	0	2	0	0	Leicestershire
J. Hughes (1677-1720)	123	0	28	2	0	Marborough
T. Parnell (1678-1718)	142	0	1	0	0	Dublin
E. Young (1681-1765)	146	7	10	6	2	Wiltshire
E. Fenton (1683-1730)	35	2	3	2	3	Staffordshire
W. Diaper (1685-1717)	75	6	26	10	2	Somerset
J. Gay (1685-1732)	263	1	28	0	1	Devonshire
T. Tickell (1686-1740)	66	3	5	2	1	Cumberland
A. Pope (1688-1744)	260	5	25	4	2	London
W. Broome (1689-1745)	46	7	23	6	0	Cheshire
J. Byrom (1692-1763)	170	0	1	2	0	Manchester
M. Green (1696-1737)	22	0	5	0	0	?
R. Savage (c.1697-1743)	48	0	0	0	0	St. Andrew



C. Pitt (1699-1748)	48	2	13	3	7	Dorset
J. Thompson (1700-48)	59	2	3	0	0	Scotland
J. Dyer (?1700-58)	5	1	10	0	0	Wales
G. West (1703-56)	76	11	21	15	2	?
R. Dodsley (1703-64)	19	2	6	0	3	Nottinghamshire
S. Jenyns (1703-87)	38	1	6	0	0	London
W. Hamilton (1704-54)	80	4	4	5	11	Scotland
D. Mallet (?1705-65)	43	0	2	0	0	Scotland
H. Brooke (1706-83)	173	1	3	1	0	Ireland
W. Harte (?1707-74)	100	2	4	1	0	Kent
S. Boyse (1708-49)	85	5	26	2	5	Dublin
L. Lyttleton (1709-73)	22	2	2	0	0	Worcestershire
P. Whitehead (1709-74)	17	2	10	0	2	Holborne
J. Armstrong (1709-79)	6	0	7	2	0	Scotland
S. Johnson (1709-84)	29	0	2	0	0	Staffordshire
J. Hammond (1710-42)	9	0	0	0	0	Kent
E. Moore (1712-57)	40	0	1	0	1	Berkshire
W. Thompson (1712-67)	29	2	6	0	2	Westmoreland
W. Shenston (1714-63)	107	1	3	0	0	Shropshire
R. Jago (1715-81)	14	0	0	0	0	Warwickshire
W. Whitehead (1715-85)	93	8	40	4	1	London
T. Gray (1716-85)	8	2	4	1	0	London
R. Cambridge (1710-1802)	79	4	5	3	2	London
J. Cawthorn (1719-62?)	22	1	3	0	0	Sheffield
W. Collins (1721-59)	29	0	0	0	0	Chichester
M. Akenside (1721-70)	51	1	2	1	8	Newcastle
T. Smollett (1721-71)	7	1	6	0	2	Scotland
W. Wilkie (1721-72)	139	0	18	18	7	Scotland
F. Fawkes (1721-77)	64	2	11	2	0	Yorkshire
T. Blacklock (1721-91)	41	0	3	7	8	Scotland
C. Smart (1722-70)	86	0	5	0	0	Kent
J. Warton (1722-1800)	16	0	1	0	0	Surrey
J. Grainger (1723-66)	1	0	0	0	0	Scotland
J.G. Cooper (1723-69)	33	2	24	1	1	Nottinghamshire
W. Mason (1725-97)	48	3	17	2	3	Yorkshire
O. Goldsmith (1728-74)	60	5	2	0	0	Ireland

T. Warton (1728-90)	73	0	4	0	2	Yorkshire
J. Cunningham (1929-73)	62	0	0	0	0	Dublin
J. Scott (1730-85)	49	0	1	0	0	London
C. Churchill (1731-64)	252	0	8	0	0	Westminster
W. Cowper (1731-1800)	129	2	22	3	0	Hertfordshire
W. Falconer (1732-69)	57	1	8	0	0	Edinburgh
R. Lloyd (1733-64)	153	1	2	1	0	Westminster
J. Langhorne (1735-79)	19	0	7	0	0	Westmoreland
W.J. Mickle (1735-88)	69	8	10	3	0	Scotland
J. Beattie (1735-1803)	91	15	25	2	5	Scotland
E. Lovibond (?1735-75)	27	0	1	0	0	Middlesex
S.W. Jones (1746-94)	58	0	2	0	0	Westminster
J. Logan (1744-88)	27	0	1	0	0	Scotland
T. Chatterton (1752-70)	83	0	5	2	0	Bristol
G. Crabbe (1754-1832)	352	0	1	0	0	Suffolk
W. Wordsworth (1770-1850)	106	1	14	0	0	Cumberland
G.G. Byron (1788-1824)	236	2	38	4	2	London
P.B. Shelley (1772-1822)	89	17	21	2	1	Sussex
J. Keats (1795-1821)	177	4	16	0	2	London
	14460	436	1839	425	310	

## 2. 4. 1. 1. ME/u:/ : ME/ou/

bow : low(Howard), mouth : flouth(Gascoigne), brow : flow, browe : throwe, mouth : flouth (Turberville), now : grow, now : low, nowe : bowe, nowe : growe(Spenser-Sonota), bound : shewd(Spenser-2), crowne : knowne, downe : knowne(Spenser-3), howle : sowle, owle : sowle (Spenser-4), mowes : blowes, mowes : growes, vowed : showed(Spenser-6), foule : soule, renowne : vnknowne(Raleigh), townes : grownes(Warner), brow : bow, brow : show(2t), browes : bowes, brows : bows, brows : shows, brows : throws, cloud : show'd, clowde : showde, down : flowne, downe : owne, downe : showne, foules : soules, fowle : soule, how : show, now : flowe, now : grow, now : ouerflow(2t), now : show(2t), plowe : growe, plowe : knowe, thou : low, thou : ouerflow, vow : grow(3t), voves : growes, voves : knowes(Chapman), allow : bestow, allow : know, allow : show(2t), bow : grow, brow : bow, brow : grow, brow : show, crown : grown(6t), crown : known(4t), crown : overflown, crown : overgrown, crown : overthrown(3t), crown : own (18t), crown : shown, crown : unknown, down : grown(2t), down : known(4t), down : overflown, down : overgrown, down :

overthrown(2t), down : own(3t), down : shown, enow : grow, frown : grown, frown : own, frown :  
 unknown, how : below, how : grow, how : know(2t), how : show(2t), now : blow, now : grow(10t),  
 now : know(3t), now : low, now : overthrow(2t), now : show(7t), renown : grown(3t), renown :  
 known, renown : overthrown, renown : own(6t), renown : shown, renown : unknown, thou : blow,  
 town : known, vow : grow, vow : know, vows : knows, vows : shows(Daniel), bow : below, bow : know,  
 bow : show, bowes : snowes, brow : blow, brow : grow, browes : growes(2t), cow : low, crowne :  
 growne, crowne : owne(2t), crowne : sowne, downe : growne, downe : owne(3t), downe :  
 unknowne, fowle : soule, fowles : rowles, towne : knowne(Drayton), brow : show, clowde :  
 foreshowde, vow : grow (Marlowe), allowing : growing, bowing : growing, brow : glow, brow : grow,  
 brow : mow, foul : bowl, fowls : souls, owl : bowl(2t), town : know (Shakespeare), browes : growes,  
 now : flow(Campion), crowne : owne, down : owne, foule : soule, now : know(Donne), brow : lowe,  
 foule : soule(2t), fowle : soule(Jonson), brow : below, brow : blow, browes : crowes, browes : flowes,  
 brown : blown, brows : blows, brows : shows, crowne : blowne, devout : know't, enowe : know,  
 gowne : owne(Hall), crowne : blowne, crowne : owne, downe : blowne, downe : knowne, downe :  
 othrowne, downe : showne, foule : soule(5t), fowls : souls, fowls : boules, fowles : soules, howle :  
 soule(2t), howls : souls, mouth : growth, now : bestow, owles : soules, proud : bestow'd, prou'd :  
 bestow'd, renouwe : owne(Stirling), brow : row, foule : soule(Marston), allow'd : bestow'd, allow'd :  
 show'd, bough : low, brow : below, brow : flow, brow : low, brow : show, brow : snow, brow : tow,  
 cloud : row'd, cloud : show'd, crown : grown, crown : unknown, down : own, now : low, plough :  
 know, plough : sow, shroud : row'd, vow'd : bestow'd (P.Fletcher), foul : soule, town : thrown(F.  
 Beaumont), brow : flow, brows : bows, brows : glows, brows : grows, crown : own, crown : own(2t),  
 crown : sown(2t), frown : own, now : flow, now : grow, plough : bow, town : own(2t), town :  
 sown(2t), town : thrown(Drummond), renown : blown, renown : known(Ford), brows : throws,  
 crown : known, crown : own, down : grown, down : known, down : thrown, down : unknown, frown :  
 known, howl : soul, owl : soul, renown : known, renown : own(Kynaston), bow : below, bow'd :  
 strow'd, brow : flow, brow : show, brow : snow, devow'd : strow'd, now : flow, now : row, now :  
 show(G. Fletcher), browes : flowes, down : own, now : owe, now : reflow, now : trow, thou :  
 owe(Browne), cowle : bowle, fowles : soules, gown : grown(Herrick), foul : soul, foule : soule  
 (Herbert), brow : owe, crown : own(King), bow : throw, downe : knowne, downe : owne, downe :  
 throwne, foule : soule, frowne : owne, now : bow, renouwe : unknowne(Carew), cloud : show'd,  
 crown : o'erthrown, fowl : soul, how : grow, now : blow, now : low, vows : owes(Chalkhill), allow :  
 throw, bow : below, bow : strow(Marmion), bow : low, crown : own (3t), down : grown, down : own,  
 down : sown, frown : own(2t), howl : soul, now : low, thou : flow, thou : grow(Benlowe), allow : grow,

allows : shows, bough : grows, bow : grow(2t), how : know, bow : low(2t), bow : ow, bows : shows, brow : grow, brow : know, brow : show, crown : grown, crown : known(5t), crown : own(2t), crowne : overthrowne, down : grown, down : own, now : flow (2t), now : grow, now : ow, now : show(4t), now : showe, now : slow, renown : grown, renown : known, renown : own(3t), renown : shown, town : grown, vows : shows(Davenant), allowed : showed, boughs : blows, boughs : grows(2t), boughs : strows, boughs : throws, crown : own(2t), down : known(2t), frown : o'erthrown, now : grow, now : know(4t), now : slow, renown : own, spouse : knows, town : own(Waller), down : known, foul : soul(2t)(Milton), foul : soul(2t), vow : know (Bosworth), brow : snow, plough : low(Whiting), down : own(Godolphin), crown : own (4t), down : own(2t), foul : soul, fowl : soul, frown : thrown, now : flow, now : owe, now : show, now : snow, now : sow, thou : bestow(Cartwright), bow : grow, bows : blows, brow : grow(2t), brow : know, cow : grow, cow : low, cow : o'erthrow, cows : blows(2t), crowd : bestow'd, crown : own(2t), down : known, down : o'erthrown, down : overthrowne, down : own(11t), drown : own(2t), enow : blow, fowl : soul (2t), house : blows(2t), how : bow, mouth : growth, now : blow(3t), now : know, now : low, now : show, owl : soul, plough'd : show'd, powder : shoulder, renown : own, spouse : blows, town : known, vow : bow, vow : grow(Butler), down : own(Cleveland), bow : owe, brow : flow, brows : flows, crown : own(3t), now : know, thou : flow, thou : grow (Denham), bow : low, brow : below, brow : glow, brow : low, browes : knowes, how : bow, proud : ouerflow'd, proud : overflow'd, towne : owne, voves : knowes(Crashaw), bow : low, cow : below, crown : known, down : own, gowne : knowne, now : row, now : throw(Lovelace), allow : show, allow-me : owe-me, brow : crow, brow : show(2t), brows : bestows, brows : knows, cloud : flow'd, crown : own(3t), crown : shown, down : grown, down : known, down : own(2t), down : shown, down : thrown(2t), endow'd : ow'd, foul : soul(2t), frown : unknown, now : below, now : bestow(3t), now : grow(4t), now : know(8t), now : low, now : owe, now : show(3t), now : slow, now : sow, plough : blow, plough : owe, shroud : flow'd, thou : bow, thou : crow, thou : flow(2t), thou : know(4t), thou : show(5t), thou : slow, town : known(2t)(Cowley), brow : know(2t), compown : grown, crown : grown(2t), crown : own(3t), down : grown, noun : own, renown : own, thou : know(Brome), down : mown(Marvell), allow : know, bough : crow, boughes : blowes, boughs : knows, bow : grow, bow : know, bow : low, brow : below, brow : flow, brow : grow, brow : low(2t), brow : snow, cloud : bestow'd, crown : blown, crown : own, crown : owne, crowne : owne, down : grown(2t), down : knowb(3t), down : own(5t), down : thrown, down : unknown, drown : own, drown-thee : own-thee, drowne : blowne, foul : soul(6t), fowls : souls, frown : grown, frown : shown, house : shows, how : grow, how : know(2t), howl : soul(2t), now : below(2t), now : blow, now : flow(3t), now : grow, now : know(6t), now : low, now : show(2t), now : slow, now : sow,

now : strow, plough : sow, ploughs : flows, scowl : soul, thou : below, thou : bestow, thou : blow,  
 thou : bow, thou : flow(2t), thou : grow(2t), thou : know(2t), thou : low(2t), thou : show(2t), thou :  
 sow, town : shown, towne : knowne, vow : know, vow : slow, voves : bestowes, voves :  
 knowes(Vaughan), thou : know (Stanley), boughs : grows, brow : glow, down : unblown, how : glow,  
 how : grow, now : glow, now : grow(2t), thou : flow, thou : show(2t)(Hall), allows : bows, bow :  
 low(2t), brow : below, brows : bows, cow : bow, crown : grown, crown : known, crown : oregrown,  
 crown : own(2t), down : own, frown : own, now : bestow, now : bow, now : know(2t), owl : bowl,  
 thou : bow, town : known, towne : growne, vow : owe(Cotton), allow-him : know-him, brow :  
 know(2t), brows : owes, crown : own(4t), down : own, frown : own(3t), how : bestow, how : know,  
 now : bestow, now : grow, now : know(3t), proud : bestow'd, thou : bestow, thou : know, town :  
 grown, voves : owes(Katherine), allow : bestow, bow : grow, bow : show, brow : flow, brow : grow,  
 crown : known, crown : own, crown : shown, crown : thrown, down : drown, down : mown, down :  
 own, frown : shown, frown : unknown, gown : known, gown : own, gown : shown, now : below, now :  
 show, prow : grow, prow : show, town : disown, town : know, town : own, town : shown(3t), vow :  
 below(Dryden-1), bough : blow, bough : grow, bough : know, bough : show, boughs : bestows,  
 boughs : grows, brow : below, brow : flow(3t), brow : show, brow : throw, crown : disown, down :  
 disown, down : grown, down : thrown, fowl : soul, gown : known, gown : shown, how : grow(2t),  
 mouth : growth, now : know, plough : below, plough : blow, plough : bow, plough : know(2t), plough :  
 low, plough : row, plough : sow(2t), plough : sowe, plough : throw, renown : own, thou : blow, town :  
 known(2t), vow : bestow(Dryden-2), allow : blow, aloud : strow'd, avow : blow, bough : low, brow :  
 below(2t), brow : bestow, brow : row, brows : blows(2t), brows : foreshows, crowd : bestow'd,  
 crown : known, crown : own, crown : shown, crown : unknown, down : known, down : thrown(2t),  
 gown : known, gown : own, now : blow, proud : ow'd, prow : below, prow : blow, prow : row(2t),  
 prows : glows, renown : blown, renown : known, renown : own, town : blown, town : known(2t),  
 town : o'rethrown, town : own(5t), town : shown(3t), town : thrown, vow : below(3t), vow : owe,  
 vow : row, vow'd : bestow'd, voves : bestows(2t), voves : throws(3t)(Dryden-3), allow : blow, allow :  
 foreslow, allow : know, allow'd : bestow'd, aloud : show'd, bough : show, bow : know, bow'd : show'd,  
 brow : below(3t), brow : blow, brow : show, brows : knows, brows : throws, clown : grown, cow : low,  
 crowd : bow'd, crown : known, down : known, gown : own, plow : sow, renown : known, spouse :  
 bestows, town : known(2t), town : shown, vow'd : flow'd(Dryden-4), crown : own, gown : shown,  
 house : throws, now : grow, now : throw, plough : know, thou : grow, thou : mow, town : own(Sprat),  
 brow : below, brow : grow, brow : know, brow : show, crown : overthrown, crown : own(4t), crown :  
 shown, crowne : owne, down : flown, down : frown, down : grown, down : known, down : o'erthrown,

down : own(3t), down : thrown, gown : own, now : know, plow : sow, renown : shown, thou : know,  
 thou : show, town : known, town : overthrown, town : shown(Flatman), thou : know(Ayres), allow :  
 crow, crown : own(3t), down : grown(2t), down : own(2t), ground : own'd, how : below, now : low,  
 now : show(2t), now : snow, renown : own, thou : owe, thou : show, town : overthrown, vow :  
 bestow(Shadwell), allow : show, down : own, down : thrown, frown : own, how : know, town : grown,  
 town : known, town : own(4t), town : shown(Wilmot), allow : show, allows : shows, bow : low, down :  
 blown, foul : soul, frown : own(2t), frown : shown, now : below, now : know, now : low, renown : own,  
 vows : grows (Sheffield), down : grown, found : disown'd, now : show, renown : own, town : grown,  
 town : own(2t)(Otway), fowler : bowler, fowlers : bowlers(Carew), bough : snow, crown : own, how :  
 know, now : blown, now : show(Hammond), allow : flow, allow : know, allow : owe, allow : show(3t),  
 brow : owe, compound : own'd, crown : own(4t), crown : unknown, down : known, down : own,  
 down : thrown, down : unknown, endow : show, found : own'd, how : blow, renown : own(2t),  
 renown : unknown(Blackmore), bow : flow, brow : grow, crown : own, down : known, down : own,  
 down : thrown, found : own'd, gown : own, now : grow, renown : shown, renown'd : own'd, thou :  
 grow, town : grown, town : known, vow : know(Duke), crowns : owns(Smith), bough : below, bows :  
 knows, brow : below, brow : flow, brows : flows, crown : own, found : own'd, frown : own, gown :  
 unknown, renown : own, renown : unknown, town : known(2t), town : own, vows : throws(Garth),  
 brow : flow, down : grown, down : own, gown : grown, gown : known, town : grown, town :  
 known(2t), town : shown(Stepney), disallow : show, down : grown, down : shown, frown : flown,  
 now : flow, renown : thrown(Walsh), allow'd : strow'd, clown : own, crown : own(2t), crown :  
 unknown, down : own(2t), drown : own, how : low, now : know, proud : bestow'd, town : own(King),  
 allow : bow, allow : show, avowe : trowe, bough : throw, bow : below, bow : know, bow : low, bow'd :  
 flow'd, bows : glows, brow : bestow, brow : flow, brow : know(2t), brow : snow(2t), brow : throw,  
 crowd : show'd, crown : known(3t), crown'd : own'd, down : flown, down : own(2t), down : shown,  
 down : thrown, how : know, now : know, now : trowe, town : own, vow : low(Prior), crown : known,  
 down : grown, now : blow(Pomfret), down : own, frown : own, proud : bestow'd, renown :  
 known(Granville), brow : grow, crown : grown, crown : unknown, down : grown(2t), foul : soul(3t),  
 fowls : bowls, now : bestow, town : grown(3t)(Swift), allow : show, bough : grow, brow : grow(2t),  
 crown : own, down : own, down : thrown, down : unknown, found : own'd, renown : unknown, town :  
 grown(3t)(Congreve), allow : bestow, brow : grow, brow : show, crown : known, down : known(2t),  
 down : own(3t), down : thrown, frown : own, how : grow, now : blow, now : grow, now : owe,  
 renown : own, town : own, town : thrown, town : unknown(Yalden), bow : show, brow : below, brow :  
 bestow, brow : grow, brow : low, brows : bestows, crown : grown, crown : own(2t), foul : soul, frown :

own, gown : own, now : bestow, renown : flown, renown : own, thou : below, thou : bestow, town : own(2t)(Rowe), bough : blow, bough : show, bound : own'd, bow : below, brows : shows(Addison), bough : flow, bough : grow(2t), bough : snow, boughs : grows(2t), brow : below, brow : blow, down : known, down : own, vovs : grows(Watts), bough : flow, bow : flow, bow : low, bow'd : show'd(2t), bow : owe, brow : below, brow : bestow(2t), brow : flow(3t), brows : bestows(2t), brows : flows, crowd : bestow'd, crown : flown, crown : grown, crown : known, crown : shown, crown : unknown, down : known, down : o'erthrown, down : own, frown : own(3t), gown : known(2t), now : know, plough : slow, renown : own(2t), town : grown, town : known(2t), town : thrown, vow : bestow (2t) (Somerville), frown : own, plow : low(Philips), bow : know, brow : below(2t), brow : flow, brow : glow, brow : show (2t), brows : flows, down : known, down : own(3t), frown : own, gown : known, now : bestow, now : blow(2t), now : bow, now : flow, plough : show, renown : known, renown : own, renown : shown, town : known(2t), town : own, town : unknown, vow : know(Hughes), down : grown(Parnell), bough : grow, brows : glows, crown : own, down : known, down : thrown, frown : own(2t), how : bestow, town : blown, town : unknown(Young), boughs : throws, cloud : bow'd, now : bestow (Fenton), allow : know(3t), around : own'd, bough : blow, boughs : grows, brow : below, brow : grow, brow : show, brows : bestows, crown : own, down : flown, down : grown, down : thrown, endow'd : bestow'd, found : own'd, frown : o'regrown, ground : own'd, howl : soul, now : below, owl : soul, plough : sow, slough : snow, town : known, town : shown, town : unknown(Diaper), adown : grown, bough : blow, bow : show, brow : below, brown : known, cow : mow, crown : unknown, down : known, down : own, down : thrown, foul : soul, found : own'd, now : mow, town : flown(2t), town : grown, town : known(4t), town : own(3t), town : thrown, town : unknown(2t), vow'd : glow'd, vovs : strows(Gay), brow : grow, brow : show, down : own, foul : soul, town : own(Tickell), bough : show, boughs : blows, boughs : grows, brow : below, brow : bow, brow : flow(2t), brow : glow, brow : grow, brows : bows, crown : own, crown : thrown, crowns : owns, down : own, found : own'd, gown : own, now : know, spouse : knows, thou : blow, town : known, town : own(4t), town : unknown(Pope), bough : blow, brow : bestow, brow : blow(3t), brow : flow, brow : glow(2t), brow : grow(2t), brow : show, brows : flows, brows : grows, brows : shows, frown : grown, frown : shown, now : show, thou : grow, vovs : bestows(3t), vovs : flows, vovs : throws (Broome), prowl : soul(Byrom), down : grown, house : bestows, plough : mow, renown : known, town : own(Green), brow : below, brow : owe, brow : show, cloud : bestowd, crown : own(3t), down : own(4t), now : below, town : grown(Pitt), down : o'erflown, frown : o'erflown, town : o'erflown (Thomson), boughs : grows, brow : below(5t), brow : low, brow : show, brown : grown, down : grown(Dyer), brow : below, brow : bestow, brow : bow, brow : flow, brow : throw, brows : bestows(2t), brows : blows, brow : flow, brows : rows, cloud :

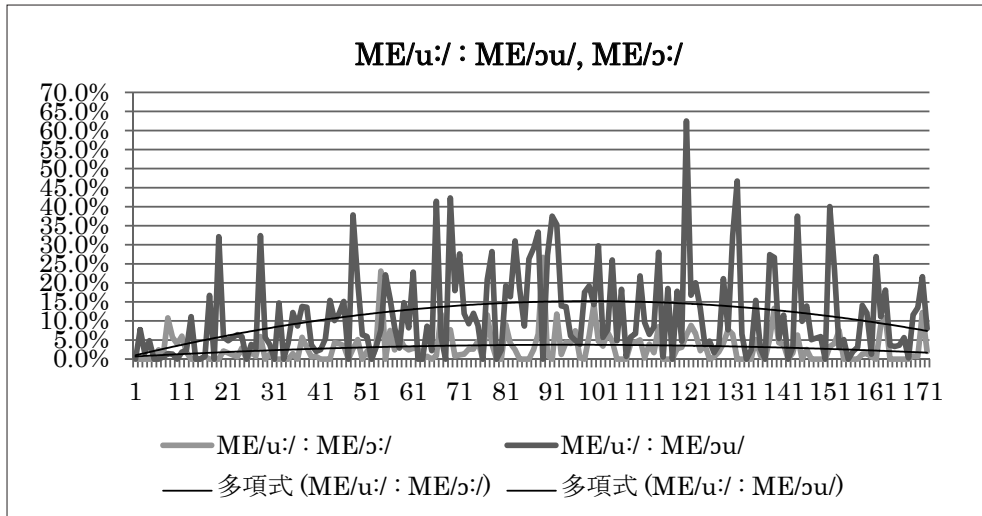
bestow'd, cloud : flow'd, cloud : show'd, crown : known, crown : unknown, down : grown, down : own, down : unknown(2t), sound : own'd, vows : bestows(West), brow : below, brow : know, gown : known, gown : own, town : shown, town : unknown(Dodsley), brow : bow, brown : own, down : own, town : grown(2t), town : known(Jenyms), brow : blow, down : own, frown : shown, round : own'd(Hamilton), crown : flown, gown : own (Mallet), bough : grow, prow : below, town : known(Brooke), brow : below, down : own, plow : know, town : known(Harte), avow'd : bestow'd, brow : below, brow : blow, brow : glow, brow : show, brows : bestows, cloud : glow'd, cloud : glow'd, crow'd : bestow'd(2t), crown : own(6t), crown : shown, crown'd : own'd, down : disown, down : own(2t), frown : own, renown : known, shrowd : bestow'd, thou : know, town : own(Boyse), brows : bestows, down : grown(Lyttleton), brow : below, brow : bestow, brow : flow(2t), brow : owe, crown : own(2t), down : own, renown : own, town : own(P. Whitehead), crown : own, down : unknown, owl : soul, town : grown, town : known, town : own, town : unknown(Armstrong), Brow : below, now : below(Johnson), boughs : glows(Moore), brow : bestow, crown : own(2t), crown : shown, down : own, renown : own(Thompson), brown : known, brown : own, brows : bestows(Shenstone), bough : blow, bough : flow, boughs : grows, boughs : rows, bow : know, bows : knows, brow : below(2t), brow : bestow, brow : blow(3t), brow : flow(2t), brow : grow(2t), brow : know(2t), brows : grows, cloud : flow'd, crowd : glow'd, crown : own(2t), crown : unknown(2t), frown : own, now : grow, renown : known, renown : own, spouse : blows, town : own(3t), vow : glow, vow : slow, vow'd : show'd(2t), vows : knows, vows : o'erflows, vows : snows(W. Whitehead), brow : below, brow : throw, scowl : bowl, thou : low(Gray), allow : know, cow : below, down : grown, town : grown, town : own(Cambridge), crown : own, crown : unknown, town : own(Cawthorn), brow : flow, vow : glow (Akenside), allow'd : glow'd, brow : blow, brow : glow(2t), ground : own'd, town : own(Smollet), allow : bestow, avow : know, bough : glow, brow : below, brow : blow, brow : flow, brow : slow, brows : grows, down : blown, down : grown, down : known, down : own(2t), down : unknown, foul : soul, frown : known, frow : own, now : below, prow : blow, renown : flown, renown : own(2t), renown : shown, town : own(Cooper), brow : below(2t), crown : own(2t), crown'd : own'd, down : own(2t), down : unknown, found : own'd, frown : unknown, pound : own'd, renown : o'erthrown, town : grown, town : known, town : o'erthrown, town : thrown(2t), vow : below(Wilkie), allow : know, bow : grow, brow : below(2t), brow : blow, crown : known, down : own, owl : soul, town : known, town : unknown(2t)(Fawkes), brow : bestow(2t), crown : own(Blacklock), bough : blow(J. Warton), brow : grow, crwon : own, town : blown, town : known, town : own(Smart), bow : glow, bow : slow, brow : bestow, brow : flow, brow : glow (3t), brow : know(2t), brows : glows, brows : throws, cloud : flow'd, crown'd : own'd(2t), prow : flow, prow : know, town : own(Mason), bows : blows, down :



own(Goldsmith), brows : glows, down : thrown, gown : own, prow : glow(T. Warton), howl : soul(Scott), crowd : bow'd, crown : own, down : grown(2t), frown : own, frown'd : own'd, town : grown, town : known(Churchill), allow : bestow, bough : below(3t), bough : show, brow : blow, brow : flow, brow : grow, brow : low, brow : show, down : own, frown : own, how : know, now : below, now : blow(2t), now : glow, now : grow, proud : bestow'd, renown : known, town : grown, town : own (Cowper), frown : own, brow : below(2t), brow : bow, brow : flow, brow : glow, brow : tow(Falconer), down : known, ground : own'd(Lloyd), brow : below, brow : blow, brow : bow, brow : flow, down : own, down : thrown, vow : blow (Langhorne), bough : low, boughs : blows, brow : slow, brows : glows, brows : shows, crown : known, crown : own(2t), down : thrown, endow'd : glow'd (Mickle), allows : glows, bough : glow, brow : below(5t), brow : bestow, brow : blow, brow : glow(3t), brow : low, down : bestrown, foul : soul, frown : bestrown, frown : thrown, frown : unknown, howl : soul(2t), now : show, prowl : soul, renown : bestrown, renown : thrown, town : unknown(Beattie), brow : low(Lovibond), prow : know, prowl : soul(Jones), aloud : flow'd(Logan), brows : glows, crown : own, frown : disown, town : own, town : shown(Chatterton), brow : below(Crabbe), bound : disowned, brow : below, brow : glow, brow : snow, brow : throw, down : o'ergrown, down : own, foul : soul, found : disowned, round : disowned, scowl : soul, town : own, town : unknown, vow : low(Wordsworth), bough : below, bough : trow, bow : show, brow : below(2t), brow : flow, brow : glow(2t), brow : low, brow : show, brow : snow, brow : throw, brow-lay : slowly, brows : throws, cowl : soul, crown : own(2t), down : grown (2t), down : known, down : own(4t), frown : known, frown : disown, frown : grown, how : below, how : show, now : below(3t), now : glow, now : low(2t), owl : soul, prow : snow, renown : own (Byron), brow : below(6t), brow : bestow, brow : blow(2t), brow : flow(3t), brow : glow(6t), brow : grow, brow : low(2t), brow : snow, now : flow, now : glow, prow : bow, scowl : soul, thou : glow(2t), thou : low, vow : glow(Shelley), brow : below, brow : low, brow : snow, brown : own, crown : blown, crown : own (2t), down : blown, foul : soul, fowl : bowl, fowl : soul, how : know, howl : soul(2t), owl : soul, slough : below(Keats).

ME/u:/ : ME/ɔu/ (そして ME/ɔ:/) は PE では [au] : [ou] の不完全韻であるが, Surrey を初めとし EModE 期のほほどの詩人にも見出されている。ME/u:/ : ME/ɔu/(ME/ɔ:/) が時代と共にどのように変化してきたかを見るために, ME/u:/ : ME/ɔu/(ME/ɔ:/) の押韻率をグラフにしてみると以下のようなになる。x 軸は詩人を出生順に並べたものであり, y 軸は ME/u:/ : ME/ɔu/ の押韻率を示したものである。近似曲線は Excel (2010) で求めたものである。

折れ線グラフ1 ME/u:/ : ME/ɔu/ の押韻率の推移



ME/u:/ : ME/ɔu/(ME/ɔ:/) は1) ある時期を過ぎると多く見出されるというのではなく、EModE期から見出されるものの、その押韻率は低い。2) 1650年頃、両者が融合していたかの如く、その押韻率は一時高くなるが、1700年以降再び低くなる傾向にあることが明らかとなった。ME/ɔu/とME/ɔ:/はEModE期に[ɔ:]又は[o:]で融合したのだから、ME/u:/ : ME/ɔu/はME/u:/ : ME/ɔ:/と同数見出されてもよいはずである。しかし、ME/u:/ : ME/ɔu/ (11%)はME/u:/ : ME/ɔ:/ (2%)より圧倒的に多く見出されている。これはME/u:/ : ME/ɔu/が-ou-に依存する視脚韻であるという要素が加わったからであり、この事実は今までどの音韻論学者も指摘してこなかった。

Kökeritz (1953, p. 245) はShakespeareに時々見出されるME/u:/とME/ɔu/の脚韻(allowing : growing, bowing : growing, brow : glow, brow : grow, brow : mow, cow : low, fowls : controls, fowls : souls, town : known)を「これらは疑いなく伝統的脚韻であり、従って、Shakespeareの発音の面からは音声的に不正確である」と解釈している。しかし、ある脚韻を伝統的脚韻と見なすにはかつては完全韻であったことの裏付けが必要である。ME/u:/ : ME/ɔu/はEModE期になって初めて出現するのである。以前には存在せず、この時期になって初めて出現する脚韻を疑いなく伝統的脚韻と処理するのは極めて不自然である。

Dobson (1968<sup>2</sup>, § 160 Note 2) はME/u:/とME/ɔu/の脚韻をME/ɔu/のME/u:/異形に依存する脚韻と解釈している。彼がME/u:/ : ME/ɔu/をこのように処理するのは、もしME/u:/のEModE期の音価が[ou]であると仮定すると、ME/ɔu/も[ɔu] > [ou]になっていたので、ME/u:/とME/ɔu/は今日同音になっていなければ理屈に合わないからである。彼の見解ではME/u:/の[u:] > [ɔu]の次の段階が[ou]であったことはあり得ないことになる。[l, x, w]の前ではME/ɔu/を持つ語にME/u:/異形が並存していた正音学者の証拠は確かに存在する。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 169-

172) によると、1) [l] の前で ---Robinson は behold に、Salesbury, Robinson, Price は gold に、Price は bold に、Robinson, Poole, Welsh Breviary, Levins は soul に、Laneham, Bullokar は would に、Poole は roll, scrowl に ME/u:/ を示している。又 Hodges は howl と hole を対にしている。2) [x] の前では ---Davis と Poole は fought に ME/u:/ を示している。3) [w] の前では ---Levins は bow (弓) に、Poole は flowen, strow, tow に、Welsh Hymn, Hart は own に、Palgrave は owe に ME/u:/ を示している。又、Hodges は近似音表で sow (種をまく) と sow (雌豚), sower (種をまく人) と sour, bow (弓) と bough, slow と slough を対にし、Young は sown と sound を対にしている。しかし、ME/u:/ 異形が並存していた証拠のない ME/ɔu/ を持つ語 (below, bestow, blow, bowl, crow, flow, glow, grow, know, mow, row, show, snow, strow, throw, trow) と ME/u:/ との脚韻が数多く見出されている。正音学者が特定の語に異形の証拠を示していないことは必ずしも異形が存在しなかったことの証明にはならない。実際には全ての語に異形が並存していたかも知れない。もしそうであったとしても、異形の存在はその異形に依存する脚韻であるかも知れないという可能性を残すだけで、異形に依存する脚韻であることの証明にはならない。殆ど全ての詩人に見出される ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻を異形に依存するものとして退けることは決して自然ではない。Kökeritz と Dobson の ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻の処理は必ずしも充分ではない。それでは EModE 期以降頻繁に見出される ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻をどのように解釈すればよいのであろうか。

筆者は a) ME/ɔu/ の [ou] > [o:] は16世紀後半には既にかなり進行していた。しかし b) 標準英語で ME/ɔu/[o:] が広く受け入れられる用になるのは17世紀からであると想定しているので、ME/u:/ : ME/ɔu/[ou] : [o:] の類韻、又は ME/ɔu/ には綴字に影響された [ou] 異形が併存していたので [ou] に依存する完全韻であると考えて来た。前者に立てば、ME/u:/ : ME/ɔu/[ou] : [o:] の類韻は ME/u:/ に [ou] が存在していた証拠となる。後者に立てば、ME/u:/ : ME/ɔu/[ou] の完全韻となる。史的音韻論の教えるところに従えば、疑義のない ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻が豊富に見出され、ME/u:/ と ME/ɔu/ が融合したのであれば、ME/u:/ と ME/ɔu/ は今日同音になっていなければ、理屈に合わないことになる。しかし、今日 ME/u:/ と ME/ɔu/ は同音になっていない。融合しない何か特別な理由が働いたことになり、この点の説明が充分ではなかった。伝統的音韻論では、ME の二重母音の第一要素は短母音と捉えるのが普通である。例えば、Hart (1569) では ME/u:/ と ME/ɔu/ は共に同じ ou が当てられている。しかし、Hart (1570) では ME/u:/ には ou が当てられているが、ME/ɔu/ には ôu が当てられている。この相違は、両書の出版年代に1年のずれしかないことを考えると、ME/u:/、ME/ɔu/ の音価の変化を示すものではなく、Hart が (1569) の表記法の不備に自ら気づき、(1570) のように書き改めたものと解釈するのが妥当であるように思われる。もし、ME の二重母音の第一要素は長母音であったと考えてよいのなら、ME/u:/=[ou] となり、ME/ɔu/[ou] ではなく [ôu] となる。ME/u:/=[ou] と ME/ɔu/[ôu] は、たとえその差は

僅少であっても、同じではなかった(近似融合)。それ故、両者は融合することはない。ME/u:/とME/ɔu/は音韻史上融合することはない。MEの二重母音の第一要素は、従来のように短母音と考えずに長母音と考えるのがEModE期の資料に合致する<sup>4</sup>。筆者の最近の見解ではME/u:/:ME/ɔu/は標準英語では[ou]:[o:],又は[ōu]の類韻となる。一方、Wright(1905, § § 127, 168)によると、ME/ɔu/を持つ語はNorfolk, Suffolk, Essex, KentでME/u:/との融合の名残である[au], [Au]と発音されていることが記録されている。これらの方言ではEModE期に見出されるME/u:/:ME/ɔu/は[ou]に依存する完全韻となり、両者は音声的にも、音韻的にも融合することになる。この事実を説明するにはME/u:/の発達過程の中に[ou]を認める方が都合がよい。Dobson(1968, § 173 Note 2)によると、北部人PooleはglowにME/u:/ > [u:]を示しているので、北部方言ではME/u:/=ME/ɔu/=[u:]の完全韻ということになる。

問題は何時ME/u:/が[ou] > [Au]に変化したかどうかである。ME/u:/が[Au]になると、ME/u:/は自らと押韻する以外には他のどの音韻とも韻を踏まなくなる。つまり、ME/u:/が[Au]であったことを示す脚韻上の証拠がなくなる。ME/u:/が[Au]であったことを示す証拠を他の音韻の発達経路から間接的に推察する以外に方法はない。筆者のME/i:/の脚韻研究<sup>5</sup>によると、ME/i:/は17世紀後半には[ei]から[ai]への変化が完了していたと思われる。ME/u:/に[ou], [Au]の等分の可能性があり(或いはME/u:/=[ou]であったという積極的な証拠がなければ)、ME/i:/に対して[ai]が普通であるときには英語の母音組織並びに音変化の一般的特性を考慮し、同じ高母音のME/u:/に対しても体系が左右対称になる音価[Au]を想定する方が妥当であろう。

#### 2. 4. 1. 2. ME/u:/ [w, y]\_\_\_\_) : ME/ɔu/

you : show(Daniel), you : bow(Drummond), swoune : unknown(Kynaston), you : shew(3t), you : show(2t)(Herrick), you : show(King), you : shew(Carew), you : know(2t), you : show(Chalkhill), you : bestow, you : grow, you : know, you : show(Waller), youth : show'th(Milton), you : know(Suckling), you : ow(Cartwright), you : know(3t)(Butler), youth : groweth(5t)(Crashaw), you : know(4t), you : owe(2t), you : shew(3t)(Cowley), youth : show'th(Marvell), youth : growth(Hannay), you : foreshew, you : shew(Dryden-1), you : show(Dryden-2), swoon : own(Dryden-3), you : shew(Sprat), you : below, you : know(Flatman), you : flow, you : know, you : show(Shadwell), you : low(Wilmot), you : bow, you : grow, you : know, you : shew(2t)(Duke), wound : own'd, you : know, you : trowe(Prior), you : know(Rowe), you : know(Somerville), you : below(W. Whitehead), you : grow(Cowper),

ME/u:/ [w, y]\_\_\_\_) : ME/ɔu/はPEでは[u:] : [ou]の不完全韻であるが、EModE期以降見出されている。

I] ME/u:/ [w, y]\_\_\_\_)を持つ語にはME/u:/異形が並存していたので、ME/u:/ (w, y)\_\_\_\_) : ME

/ɔu/ は実質 ME/u:/ : ME/ɔu/ となり、標準英語では ME/u:/ : ME/ɔu/=[ou] : [ɔu] (16c), 又は [o:] (17c) の類韻、東・南部方言では [ou], 北部方言では [u:] に依存する完全韻である。この脚韻は ME/u:/ : ME/ɔu/ と同様、ME/u:/ の発達過程に [ou] が存在していたことを示す貴重な脚韻である。

II] ME/ɔu/ はいくつかの中・東部方言では [o:] > [u:] となったので、ME/u:/([w, y]\_\_\_\_) : ME/ɔu/ はこれらの方言では [u:] に依存する完全韻となる (Kökeritz, 1953, p. 231)。

#### 2. 4. 1. 3. ME/u:/ : ME/ɔ:/

recount : wount, surmount : wount(Spenser-2), couch : approach, couch : broch, couch : reproch(Spenser-3), hould : behold, hould : enrould, hould : fold(Spenser-4), cowl : tole, scowles : sholes(Drayton), fowls : controls(Shakespeare), foule : controule, foule : enroule(Donne), crowne : throne, foule : whole(Hall), devout : dote(3t), foule : controul, foule : controule, fowls : controuls, howls : scrouls, owles : scroules(Stirling), brows : woes, down : throne(Drummond), fowl : control, fowl : scroll(Kynaston), foul : roll, howl : roll(G. Fletcher), mount : wont, mouths : clothes (Chalkhill), howl : roll(Benlowe), crowne : throne, fowl : controul(Davenant), allow : so, down : stone, down : throne, fowl : control, town : throne(Waller), foul : roll(Milton), renown : Rome (2t)(Godolphin), about : throat, account : don't(3t), crowd : rode, dismount : wont, down : alone, espouse : close, fowl : scrowl, mount : unwont, mouth : loth, powder : soldier(4t), powders : odours, prowess : foes, sound : groan'd, thousand : chosen, vow : go, vow'd : load, vows : oppose, vows : rose(Butler), mouth : oath, out : vote(Cleveland), allow : so, proud : load(Denham), crown : THRONE(Crashaw), bowe : woe, crowne : bemone(Lovelace), cowl : toll, down : alone, down : home, howl : roll(2t), now : ago, now : so, owl : roll(Cowley), down : stone(Sherburne), down : groan (Brome), out : note, thou : go(Vaughan), crown-thee : unthronethee, vow : go(Stanley), account : wont(Hannay), down : alone, thou : go(Hall), owls : holes(Katherine), now : ago, town : alone (2t) (Dryden-1), brows : foes, crown : alone, crown : throne, down : alone, down : stone, down : throne, down : zone, prou'd : fold, spouse : goes, town : tone(Dryden-2), brow : go, brows : inclose, down : alone(2t), foul : rowl, now : foe, now : woe, town : groan, vows : chose, vows : rose, vows : woes(Dryden-3), allow : go, brow : woe, brows : rose, cows : rose, down : alone, foul : roul, house : close, now : woe, plough : foe, prow : foe, town : alone(2t)(Dryden-4), crown : alone, crown : throne, now : foe, town : alone(Sprat), crown : throne, down : alone, renown : throne(2t)(Halifax), down : throne(3t)(Flatman), allows : impose, bow : so, down : throne(2t), house : enclose, now : undergo, plow : so, thou : so(Shadwell), crowd : load, down : alone(Wilmot), brow : so(Sheffield), around : entron'd, renown : throne(Blackmore), gown : alone, proud : load, town : alone(Duke), vow : disclose(Smith), bough : go(Garth), down :

alone(King), brows : woes, crown : alone, down : alone(2t), down : throne(2t), found : aton'd, now : woe(2t), town : stone(Prior), crowns : thrones, down : alone(2t), frown : throne, now : foe, now : so(Granville), brows : goes, down : throne, how : woe, now : woe, renown : throne(Yalden), brow : go, brows : goes, how : no(Rowe), down : throne, mouth : sloth(Addison), cloud : road, down : groan, down : throne(4t), down : tone, frown : throne, town : throne(Watts), down : alone, down : throne, drown : alone, endow'd : road, renown : throne, town : alone(Somerville), crown'd : inthron'd, down : bone, down : groan, down : throne, drought : throat, drowns : groans, town : alone(Young), advowson : dispose-on, crown : throne(Fenton), allow : go, down : alone, down : throne(2t), owl : control(Diaper), boughs : arose(Gay), down : bone, frown : throne(2t)(Tickell), brows : goes, down : throne, frown : stone, gown : alone, town : alone (Pope), boughs : woes, bows : woes, brow : woe, brows : rose(2t), crowns : thrones, down : groan (Broome), bow : woe, crown : throne(Pitt), howl'd : controll'd, howl'd : roll'd(Thomson), down : stone(Dyer), brow : woe(2t), crown : throne, crown'd : thron'd, down : moan, down : throne(3t), foul : whole(West), bow : go, espous'd : oppos'd(Dodsley), down : throne(Jenyns), boughs : rose, howl : controul, vows : woes(Hamilton), prow : goal (Brooke), brow : forego, brow : woe(Harte), crowd : road, down : throne(3t), town : alone(Boyse), frown : alone, town : alone(Lyttleton), brow : foe, crown : throne(P. Whitehead), frown : stone, vow : woe(Thompson), town : alone(Shenstone), allow : so, bough : woe, brow : foe(2t), crown : throne, frown : stone, now : so(W. Whitehead), brow : woe(2t)(Gray), crown'd : thron'd, town : alone, town : stone(2t)(Cambridge), crown : zones(Cawthorn), prow : foe(Akenside), howl : roll (Smollet), brows : rose, down : throne(Cooper), brow : roe, fowl : roll(Fawkes), brow : foe, crown : throne, prow : foe(Mason), bows : those, down : alone, howling : rolling(2t), spouses : discloses(Goldsmith), brow : foe, down : alone(Cowper), prow : go(Falconer), how : no(Lloyd), bough : woe, boughs : chose, boughs : rose, brow : foregoe, brows : impose, brows : rose, brows : woes, vow : goe(Mickle), allows : woes, boughs : arose, brow : woe(2t), brows : enclose, crown : throne, foul : control, foul : roll, frown : alone(2t), frown : groan, howl : controul, gowl : roll, prow : control, renown : drone(Beattie), brow : fro(Wordsworth), brow : woe, cowl : unroll(Byron), brow : woe(6t), cloud : rode(2t), howl : roll, howling : rolling(4t), owl : roll, thou : woe(2t), vow : woe(Shelley), count : wont, down : zone, mount : wont(Keats).

今回の調査から、ME/u:/ : ME/o:/ は 1) ある時期を過ぎると多く見出されるというのではなく、EModE 期から見出されるものの、その押韻率は低い。2) 1650年頃、両者の押韻率は一時高くなるも、1700年以降再び低くなる傾向にあることが明らかとなった(推移は ME/u:/ : ME/o/, ME/o:/ のグラフ参照)。ME/u:/ : ME/o:/ は ME/u:/ の発達過程を推定する上で極めて重要な脚韻であるにもかかわらず、音韻論学者は ME/u:/ : ME/o:/ を組織的に収集しておらず、適切に処理もしていない。

ME/u:/ : ME/ɔ:/ は PE では [au] : [ou] の不完全韻であるが、当初考えていた以上に Spenser を初めとし EModE 期以降の詩人に見出されている。Kökeritz (1953, p. 245) は Marlowe にも down : throne が見出されているところから、Shakespeare の down : bone (TC 5,8,11但し、TC は完全な韻文ではなく時折押韻している程度の作品) を伝統的脚韻であり、従って、Shakespeare の発音の面からは音声的に不正確であり、どの音に依存するものであるかを音韻論的にうまく説明することは難しいと考えている。ME/u:/=[Λu] であったという前提のもとでは、ME/u:/ : ME/ɔ:/ を伝統的脚韻として処理する以外にこの脚韻を証拠から取り除く方法はなかったであろう。しかし、ある脚韻を伝統的脚韻と見なすにはかつては完全韻であったことの裏付けが必要である。以前には存在せず、EModE 期になって初めて出現する脚韻を疑いなく伝統的脚韻とするのは極めて不自然である。我々の調査でも、EModE 期の初期の詩人：Wyatt, Howard, Gascoigne, Turberville, Raleigh, Sidney, Lyly, Southwell, Daniel では ME/u:/ : ME/ɔ:/ は見出されていない。ME/u:/ を含む脚韻総数が100以上の詩人のうち、Spenser, Drayton, Stirling, Waller, Butler では ME/u:/ : ME/ɔ:/ がそれ以前より多く見出され、1650年までの脚韻総数が少ない詩人でも、ME/u:/ : ME/ɔ:/ は徐々に見出される傾向にある。ME/u:/ : ME/ɔ:/ は伝統的脚韻ではなく、ME/u:/ の音価を推定することの出来る貴重な資料である。Dobson は ME/u:/ と ME/ɔ:/ の脚韻の例を挙げてもおらず、処理もしていない。それでは EModE 期以降の詩人に見出されている ME/u:/ と ME/ɔ:/ の脚韻はどのように処理されるべきであろうか。

I ] [1] の前の ME/ɔ:/, ME/ɔ/ は LME 期までに ME/ɔu/ に発達したので、control, enroll, fold, hole, roll, soldier, toll 等は我々の母音番号では ME/ɔ:/ が付与されているが、実質 ME/u:/ : ME/ɔu/ となる。ME/u:/ : ME/ɔu/ は、ME/u:/, ME/ɔu/ が共に ou と綴られることもあり、ou に依存する視脚韻となり、EModE 期以降頻繁に見出されている。この脚韻の処理に関しては ME/u:/ : ME/ɔu/ 参照のこと。

II ] これらを差し引いても ME/u:/ : ME/ɔ:/ (ago, arose, atone, approach, bone, broch, chose, close, clothe, disclose, dote, drone, enclose, foe, forego, fro, go, goal, groan, impose, inclose, load, loth, moan, no, note, oath, odour, oppose, reproach, road, rode, Rome, rose, sloth, so, stone, throat, throne, vote, woe, wont, zone) の脚韻が、ME/u:/ : ME/ɔu/ 程頻繁ではないにしても、16世紀以降の詩人にしばしば現れる。今までのどの音韻論学者も ME/u:/ : ME/ɔ:/ を ME/u:/ の音価を推定する資料として取り上げてこなかった。筆者は ME/ɔ:/ の [ɔ:] > [o:] は多分、既に、16世紀後半までにおこり始めていたが、a) 標準英語で広く受け入れられるようになるのは17世紀であると想定しているので、ME/u:/ : ME/ɔ:/=[ou] : [ɔ:] (16世紀) 又は [o:] (17世紀) の類韻となり、ME/u:/=[ou] の証拠となる。ME/u:/ : ME/ɔ:/ は類韻であるので、両者は今日、標準英語では融合していない。一方、Kökeritz (1953, p. 231) によると、b) 中部・東部方言では ME/ɔ:/ は [u:] となっている。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 150) によると、ME/ɔ:/ (boat, both, engross, foal, ghost, go, most, none, post, roast,

Rome, smoke, stole, those, toe 等) は、北部方言では ME/ɔ:/ の ME/o:/ への高母音化の結果、ME/o:/ 異形が並存していたので、ME/u:/ : ME/ɔ:/=[u:] に依存する完全韻ということになる。Wright (1905, § 93) によると、coal は Suffolk で、foal は Northumberland, hope は Leicestershire, nose は Stafford, Suffolk で ME/o:/ との融合の名残である [u:] と発音されていることが記録されている。ME/u:/ : ME/ɔ:/ を説明するに当たり、二通りの解釈があり、一つが標準英語での類韻、他方が地域方言での完全韻である。

#### 2. 4. 1. 4. ME/u:/ : ME/ɔ:/ ([w] \_\_\_\_\_)

ground : swound, sound : swound, vowed : wowed(Spenser-Sonota), downe : swowne, grownd : swownd, sowne : swowne, towne : swowne(Spenser-1), adowne : swowne, arownd : swownd, crowne : swone, found : swound, fownd : swownd(2t), ground : swound, grownd : swownd, renowne : swowne, rownd : swownd, sowne : swowne, stownd : swownd(2t)(Spenser-3), crowne : swowne, downe : swone, found : swound, ground : swound(2t), stound : sound(Spenser-4), bound : swound, crowned : swoned, drowned : swowned, found : swound, frowned : swowned, ground : swound (Spenser-5), found : swound(2t), ground : sound, ground : swound(4t), stound : sound, stound : swound, vowed : wowed(Spenser-6), down : sowne(Warner), crowne : swowne, drown'd : swoun'd, found : swound, frowne : swowne, ground : swoun'd, sound : swound(Drayton), downe : swoone (Marlowe), vowed : wooed(Campion), groun' : swoone(Jonson), brow : woo, down : swoone (2t)(Kynaston), drowne : swoun(Browne), downe : swoone(Herrick), ground : swound(Chalkhill), bound : swound(Marmion), bounded : swooned, ground : swoon'd(Benlowe), found : swound (Whiting), down : swoon(Butler), brow : woee, round : swound(Crashaw), bow : woo, drown : swoon(Hannay), sound : swound (Cotton), drown'd : swound, ground : swoond, sound : swound(Dryden-4), tomb : womb(Dillon), nouns : swoons(Wilmot), gown : swoon(Swift), bough : woo(Tickell), vows : woos(Hamilton), adown : swoon(Keats).

ME/u:/ : ME/ɔ:/([w] \_\_\_\_\_) は PE では [au] : [u:] の不完全韻であるが、Spenser を初めとし EModE 期以降の詩人に見出されている。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 153, § 163) によると、swoon, womb, woo には ME/ɔ:/ が高母音化した [u:] 異形が並存していた。従って、ME/u:/ : ME/ɔ:/([w] \_\_\_\_\_) は ME/u:/ > 二重母音化阻止 > [u:] : ME/ɔ:/ > 高母音化 > ME/o:/=[u:] に依存する完全韻である。swoun の PE[u:] は ME/u:/ が [w] \_\_\_\_\_ で二重母音化せず [u:] のまま残ったことに由来する。womb, woo の PE[u:] は ME/ɔ:/ が [w] \_\_\_\_\_ で [o:] > [u:] と高母音化し、[u:] の段階で ME/o:/ と合流したことに由来するものである。



## 2. 4. 1. 5. ME/u:/ : ME/ɔ:/ (&gt; [ɔ])

renown : gone(Davenant), plough : trough(Whiting), town : gone(Dryden-2), town : gone (Dryden-3), down : shone(Sprat), down : gone(Flatman), down : shone(Shadwell), down : gone(Walsh), renown : gone, town : gone(Pomfret), down : undergone(Yalden), mouth : froth(Addison), down : gone (Watts), crown : gone(Somervile), down : gone(Diaper), crown : shone, renown : shone(West), renown : shone(W. Whitehead).

ME/u:/ : ME/ɔ:/ (> [ɔ]) は PE では [au] : [ɔ] の不完全韻であるが、EModE 期以降の詩人に散見されている。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 33)によると、ME/ɔ:/ の短母音化は、ME/ɛ:/ のそれと並んで、かなり一般的で、gone, shone の PE [ɔ] は ME/ɔ:/ > ME/ɔ/ の過程を経て発達したものである。ME/u:/ : ME/ɔ:/ (> [ɔ]) は ME/u:/ = [ou] : ME/ɔ:/ = [ɔ:] 又は [o:] の類韻、若しくは ME/u:/ > [u(:)] と gone の方言音 ME/ɔ:/ = [o:] > [u(:)] に依存する完全韻かのどちらかである。EModE 期には both, broad, groat, home, loath, loaf, rode, those, woad, wrote 等にも短母音化に由来する異形が並存していた正音学者・脚韻の証拠が存在する。しかし、これらの語では短母音化を持つ異形は PE では廃用に帰している。ME/ɔ:/ の短母音化は、ME/ɛ:/ のそれと同じほど一般的であったが、どういう訳か、PE では ME/ɛ:/ のそれほど多くの痕跡を残していない。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 34)によると、trough の PE [ɔ] は、ME/au/ > ME/a/ と平行的に、15-6世紀における ME/ɔu/ > ME/ɔ/ に由来するものである。この ME/ɔ/ は17世紀に無声摩擦音の前で長母音化し、EModE 期には [ɔ:], [ɔ] が並存していた。

## 2. 4. 1. 6. ME/u:/ (\_\_\_\_ [m, p]) : ME/ɔ:/

glom : home(Surrey), toome : Roome(Gascoigne), tombe : Rome(Spenser-Sonota), roome : Rome (Spenser-2), toome : Rome(Warner), rooms : homes, tombs : homes(Daniel), stoupe : hope, tomb : Rome(Drayton), roome : Rome(Donne), roome : home(Jonson), tomb : comb, tomb : Rome, tomb : Rome(Drummond), room : home(Ford), roomes : coombes(Browne), room : home(Davenant), tomb : comb(Milton), rooms : combs(Cleveland), roome : home(Lovelace), room : home (2t) (Cowley), tomb : womb(4t)(Chamberlayne), room : home(Hall), room : foam(Katherine), room : home (Dryden-1), tomb : home(Dryden-3), droop : hope, tomb : Rome(Dryden-4), tomb : home (Flatman), tomb : Rome(Ayres), room : home(Wilmot), room : comb(Blackmore), room : home (King), droop : hope(2t)(Prior), room : home(Congreve), room : home(Yalden), room : home(Rowe), tomb : Rome (Addison), gloom : Rome, tomb : home (Watts), room : comb, room : home, room : roam (Somervile), room : home(Young), gloom : roam (Fenton), Room : Home(2t)(Diaper), rooms : combs (Gay), room : home(Byrom), gloom : roam, room : home(Pitt), gloom : Rome, tomb : Rome (Thomson), droop : hope(Dodsley), tomb : Rome (Brooke), room : home(Armsrong), tome : home,

tomes : roams(Shenstone), gloom : roam(Gray), tomb : roam(Akenside), tomb : Rome (Fawkes), tomb : home(3t)(Blacklock), tomb : Rome(J. Warton), gloom : Rome, room : home (Smart), room : home(Cunningham), tomb : Rome(3t)(Churchill), gloom : home(Falconer), gloom : Rome, tomb : home(Langhorne), glooms : roams, tomb : roam, tombs : roams(Beattie), tomb : Rome(Lovibond), droop : hope, gloom : home(4t), room : home(3t), stoop : hope(2t), stoop : rope(Crabbe), tomb : Rome(Byron), tomb : home(Shelley).

ME/u:/(\_\_\_\_m, p) : ME/ɔ:/ は PE では [u:] : [ou] の不完全韻であるが、EModE 期以降見出されている。Dobson (1968<sup>2</sup>, § § 148-55), Kökeritz (1953, p. 238) は次の ME/ɔ:/ を持つ語には少なくとも、EModE 期には ME/o:/ 異形が並存していたことを示している。これは特に Mids, Eastern の特徴である。

1) [n] の前 (none, one, throne), [t] の前 (boat), [l] の前 (foal, mole, pole, stole), [s, θ] の前 (both, engross, ghost, post, roast), 2) [v] の前 (drove, grove), [k] の前 (smoke, poke), [m] の前 (home), 3) 語尾 (go, toe), 4) [w] の後 (woe, woo, womb), 5) フランス語借用語 (Rome) <sup>6</sup>.

従って、ME/u:/ とこれらの語との脚韻は [u:] に依存する可能性も考慮に入れなくてはならない。母音三角形を念頭に置いた場合、ME/ɛ:/ と ME/e:/ は共に PE では [i:] となっているのに対し、それに相当する後母音の ME/ɔ:/ は [ou], ME/o:/ は [u:] となり、前母音と後母音では非平行的な発達を遂げている。しかし、方言では、どういう訳か、ME/ɔ:/, ME/o:/ は共に [u:] となり、前母音の ME/ɛ:/, ME/e:/ と同じ発達過程を辿っている。

#### 2. 4. 1. 7. ME/u:/([w, y]\_\_\_\_) : ME/ɔ:/

wound : thron'd(Davenant), you : go(Waller), you : go(Cartwright), you : undergo(Dryden-1), you : go(Dryden-4), you : go(3t)(Flatman), You : so(Shadwell), you : undergo(Sheffield), you : go(Duke), youth : both(Walsh), wound : groan'd(Addison), wound : enthron'd(Watts), you : go(Broome), you : woe(Shelley).

ME/u:/([w, y]\_\_\_\_) : ME/ɔ:/ は PE では [u:] : [ou] の不完全韻であるが、EModE 期以降散見されている。

I] Dobson (1968<sup>2</sup>, § 4) によると、you, youth には本来の ME/u:/ が並存していたので、you : go, youth : both=[ou] : [ɔ:] 又は [o:] の類韻となり、ME/u:/ に [ou] が存在していた証拠となる。

II] Dobson (1968<sup>2</sup>, § 178), Kökeritz (1953, p. 231) によると、ME/ɔ:/ は中部・東部方言で [u:] になった証拠があるので、これらの方言では wound : groan'd 等は [u:] に依存する完全韻となる。

## 2. 4. 1. 8. ME/u:/ (&gt; [ʌ] &gt; [ʌ]) : ME/ɔ:/

double : noble, trouble : noble(Denham), dozen : frozen(Cotton), touch : approach(Katherine),  
dozen : chosen(Prior), touch : approach(Addison).

ME/u:/ (> [ʌ]) : ME/ɔ:/ は PE では [ʌ] : [ou] の不完全韻であるが, EModE 期以降稀ではあるが見出されている。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 19) によると, ME/u:/ (> [ʌ]) を持つ語は ME/u:/ 異形が並存していた証拠があるので, ME/u:/ (> [ʌ]) : ME/ɔ:/ は実質 ME/u:/ : ME/ɔ:/ となり, 標準英語では ME/u:/=[ou] : ME/ɔ:/=[ɔ:] ~ [o:] の類韻となり, ME/u:/ に [ou] が存在していた証拠となる。一方, ME/ɔ:/ が [o:] > [u:] へ高母化した方言では ME/u:/=ME/ɔ:/=[u:] の完全韻となる。

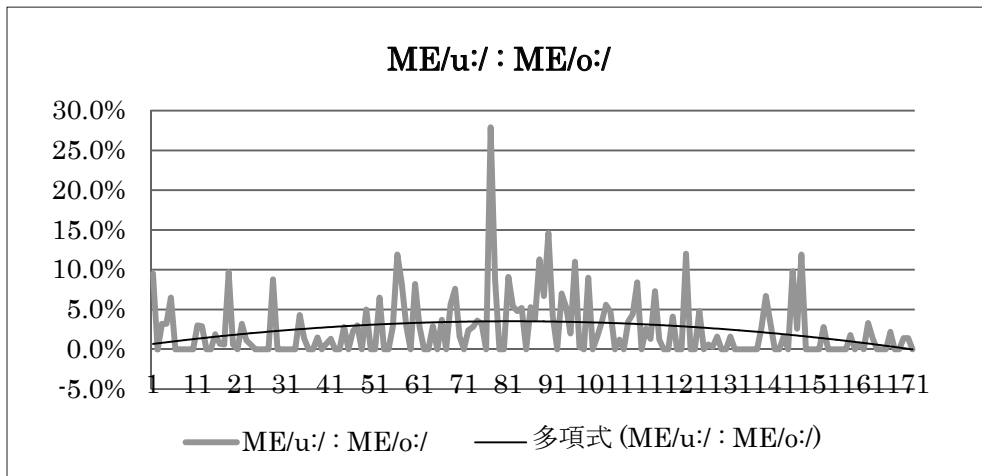
## 2. 4. 1. 9. ME/u:/ : ME/ɔ:/

allowde : foode, clowde : foode, lowd : roode, now : thereto, now : tow(Wyatt), frowne : sowne,  
mouse : goose, mouse : loose(Gascoigne), plough : through(Turberville), mouth : vncouth, out :  
roote(Spenser-Sc), about : roote, aboute : roote, proud : brood, proud : food, proud : mood  
(Spenser-Sonota), disauow : doe, disauow : thereto, disauow : to(Spenser-6), vow : vnto  
(Lyly), vowe : doe(Warner), aloud : mood(Southwell), plough : through(Marlowe), vow : unto  
(Shakespeare), allows : shoes, coule : foole, mouth : tooth(Hall), brow : too, now : too(F. Beaumont),  
brown : moon(Drummond), enow : too(Herrick), thou : too(Chalkhill), sprout : roote (Habington),  
allow : too, now : too(Waller), now : do, now : too(Suckling), how : through, now : too(Cartwright),  
allow : do, allow : too, house : shoes(2t), mouth : doth, now : do, now : through(2t), out : do't(3t),  
out : root, out : through't, prowess : loose, spouse : lose, thou : too, vow : do, vow : two, vows :  
loose(Butler), mouth : uncouth(Cleveland), bow : doe, down : noone, downe : noone, houses : loose,  
now : doe, now : too, out : root, proud : brood, thou : doe, without : root(Crasahw), brow : do, cow :  
who, now : two, thou : do, thou : too, vow : two(Lovelace), allow : too, now : do, now : too, now :  
two, thou : do(2t), thou : too(Cowley), house : choose, mouth : tooth, now : do, now : too(Brome),  
house : choose, house : loose(2t), house : to-us, now : through, thou : too, vowels : loose(Vaughan),  
bow : do, how : two(Hannay), thou : through(Hall), out : doo't(Cotton), down : moon, house : to-  
us, town : soon, vow : too(Dryden-1), aloud : food, cows : lose, foul : school, fowls : fools, mouth :  
tooth, now : doe, out : boot, vow : do (Dryden-2), aloud : brood, avow : do, disavow'd : brood, fowl :  
pool(Dryden-3), allow : two, down : moon, town : soon(Dryden-4), house : lose, now : do(3t), now :  
to, now : too(3t), now : undo, out : do't, stout : do't, thou : too(Sprat), now : do, thou : too(Flatman),  
bow : too, clown : afternoon, now : do, now : too, vow : do, vow : too(Shadwell), down : soon, town :  
soon(Wilmot), owl : fool(Otway), frown : moon(Hammond), down : moon(Blackmore), proud :  
food(Duke), allow : too, bow : too, owl : tool (Garth), house : loose, louse : choose, now : do, now :

two(King), sounds : lose(Prior), brow : too (2t), now : too(2t)(Granville), house : choose(Swift), down : boon, down : moon, owls : fools (Yalden), bough : two, brow : through, now : too(Watts), bow'd : mood, house : loose (Somerville), house : shoes(Hughes), down : moon(Young), vow : too(Fenton), mouth : uncouth, now : two, out : to't(Diaper), brow : too(Tickell), brows : ooze, cowl : fool, owls : fools(Pope), down : moon (2t) (Broome), housing : choosing, out : route(Byrom), gloom : doom, tomb : bloom (2t)(Savage), endow'd : brood, renown : boon, town : boon(West), thou : do, town : afternoon (Hamilton), rout : shoot(Brooke), how : two, proud : mood(Armstrong), bow : two, now : too, owl : school(Wilkie), house : goose(Fawkes), owls : schools, spouse : loses, vow : two, vows : lose (Blacklock), mouth : tooth(Mason), allow : too(Cowper), about : route(Lloyd), crown : boon (Beattie), about : route, mouth : uncouth, out : route, South : uncouth(Byron).

ME/u:/ : ME/o:/ は PE では [au] : [u:] の不完全韻であるが、EModE 期以降特に北部、Sc. 出身の詩人に見出されている。ME/u:/ : ME/o:/ が時代と共にどのように変化してきたかを見るために ME /u:/ : ME/o:/ の押韻率をグラフにすると、以下のようになる。

折れ線グラフ 2 ME/u:/ : ME/o:/ の押韻率の推移



ME/u:/ : ME/o:/ は特定の時期を過ぎれば多く見出されるというわけではなくて、EModE 期以降散見される程度である。北部方言では ME/o:/ > [u:] に、ME/u:/ > [u:] だったので、北部出身者には ME/u:/ : ME/o:/ が比較的に見出されるが、時代が後になるにつれて、再び少なくなる傾向にある。17世紀後半のものは伝統的脚韻である公算が大きいけれど、16世紀のものは、この種のものが見出されるのはこの時期からであるので、伝統的なものとして処理することは出来ない。ではこの脚韻をどのように解釈すればよいのか。Kökeritz (1953, p. 246) は Shakespeare に見出される crown : noon (J 4.2. 151-2, 但しこれは無韻詩形からのもの) を crown の北部方言音 [u:] に依

存するものと想定している。一つの解釈は Kökeritz のように ME/u:/ を持つ語の北方方言音 [u:] に依存するものとするところである。もう一つの解釈はこの脚韻を [uw] が古風な発音として並存していて、その発音を利用したものとするところである。Kökeritz が前者に立つのは、ME/u:/ は EModE 期には [əu] 又は [Au] になっており、[uw] が存続していたはずがないと考えるからである。しかし、この脚韻を [uw] が古風な発音として存続し、その発音を利用したものとするところも十分可能である。ME/o:/ が EModE 期に [u:] になっていたことに関しては各種の証拠があり、先ず間違いない。従って、この種の脚韻を ME/u:/ > [uw] : ME/o:/ = [u:] の類韻（殆ど完全韻に近い）と考えれば、ME/u:/ に [uw] が存在していたことの証拠になる。ME/u:/ = [uw] と ME/o:/ = [u:] は、たとえその差は僅差であっても、同じではなかった。それ故に両者は融合しなかった。17世紀以降、StE で ME/u:/ = [Au] が容認されるにつれ、ME /u:/ : ME/o:/ は少なくなる。これは ME/u:/ は二重母音 [əu] 又は [Au], ME/o:/ は長母音 [u:] となり、両者の母音が余りにも違いすぎたからである。

I ] a) Luick (1914-40, § 481) は ooze に ME/u:/ 異形が並存していたことを示している。従って、brows : ooze(Pope) は ME/u:/ 同士のものかも知れない。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 158) によると、Bullockar (Sussex 出身) は booth, roof に ME/o:/ が高母音化した ME/u:/ 異形 (↔ ME/e:/ > ME/i:/) が並存していたことを示している。従って、ME/u:/ とこれらの語との脚韻は ME/u:/ 同士のものかも知れないが、我々の調査では ME/u:/ : booth, roof は見出されなかった。

b) Wright (1905, § 162, § 164) によると、moon は Stf., Lei., Shp., noon は Chs., Stf., Der., school は Stf., soon は Stf., Der., tool は Dur., Stf. で [Au] <ME/u:/ < ME/o:/ を持っていることが示されているので、brown : Moon(Drummond), down : Moon(Dryden-1), frown : Moon(Hammond), down : Moon(Blackmore), down : Moon(Yalden, Young, Broome), downe : noone(Crashaw), clown : afternoon(Shadwell), town : afternoon(Hamilton), foul : school(Dryden-2), owl : school(Wilkie), owls : schools(Blacklock), town : soon(Dryden-1), down : soon, town : soon(Wilmot), owl : tool(Garth) は ME/o:/ > ME/u:/ 同士のものであるかも知れない。

c) Dobson (1968<sup>2</sup>, § 161) によると、uncouth には ME/u:/ 異形が並存していた。mouth : uncouth (Cleveland, Diaper, Byron) は ME/u:/ 同士のものかも知れない。従って、ME/u:/ と I ] の諸語との脚韻は ME/o:/ の ME/u:/ 異形に依存する完全韻であるかも知れない。

II ] ME/o:/ が EModE 期に既に [u:] になっていたことは音韻論学者の一致するところであり (Wyld, 1936<sup>3</sup>, p. 234, Kökeritz, 1953, p. 235ff, Dobson, 1968<sup>2</sup>, § 156), 1a(allow, aloud, bow, brow, cloud, clown, cow, crown, down, gown, foul, house, how, louse, mouse, now, out, owl, plough, proud, spouse, sprout, thou, vow, without) : ME/o:/ は ME/u:/ の方言音・俗語の [u:] に依存する完全韻であるかも知れない。ME/u:/ の二重母音化は、ME/o:/ の [u:] への高母音化と同様、Lin 南部, Yks 南部, 南西部, Lan, Cum 南部を除く Humber 川の南部側全域で生じ、それより北側の N., Sc. で

は起こらず, ME/u:/ は [u:] のまま残っている (中尾, 1985, p. 199)。尚これらの地域では ME/o:/ は [u:] へ高母音化せず, [e:], [y:] へ前母音化されている。ME/o:/ の [e:], [y:] への変化が GVS の前に生じているので, ME/o:/ の [u:] への高母音化は具現されない。Sc. では ME/o:/ は [r, v, d, z] の前位置では [e:] が保持されるが, N では ME/o:/ > [y:] から [iu] となっている。ME/u:/ : ME/o:/ は標準英語での ME/u:/=[uw] : ME/o:/=[u:] の類韻か, 方言での ME/u:/=ME/o:/(> ME/u:/)=[u:] の完全韻かのどちらかである。

#### 2. 4. 1. 10. ME/u:/ : ME/o:/(>[u], [ʌ])

lowd : cowd(Wyatt), aloud : stood, aloud : wood(Spenser-6), loud : good(Drummond), about : foot (2t), allow'd : good, cow'd : understood, crowd : good, out : foot, proud : withstood, rout : foot, vow'd : good(Butler), proud : good(Hannay), vow'd : cou'd(Dryden-1), devout : foot(Dryden-2), cloud : stood, crowd : stood, proud : stood, proud : wood(Dryden-3), allow'd : cou'd, aloud : stood, crowd : good, proud : good(Dryden-4), proud : good(Halifax), cloud : good(Flatman), cloud : good (Duke), allow'd : good(2t)(Garth), about : foot, bow'd : stood(Prior), proud : good (Granville), crowd : understood(Yalden), aloud : stood, cloud : stood(Addison), cloud : stood (Watts), crowd : should(Somerville), out : foot(Young), clouds : woods(2t)(Diaper), vow'd : good (Tickell), proud : good(Pope), cloud : stood, clouds : woods, crowd : stood, endow'd : stood(West), aloud : stood, proud : good, proud : should(Hamilton), crowd : good(W. Whitehead), vow'd : stood (Akenside), aloud : stood(2t), crowd : stood(8t), crowd : wood, loud : stood(Wilkie), howd'ye : goody(Fawkes), crowd : good, endow'd : good(2t)(Blacklock), crowd : good(Cowper), crowd : good (Beattie), ME/u:/ : ME/o:/(> [ʌ])

shrowde : bloud(Turberville), shrow'd : blood(Chapman), clouds : floods, shroud : blood (Southwell), mouth : doth, south : doth(Daniel), shrowd : blood(Marlowe), loud : blood(G. Fletcher), renounce : once(Herbert), clouds : floods(Chalkhill), clouds : floods, shrouds : floods(Benlowe), crown : done, down : one, gown : done(Waller), account : done't, allow'd : blood(2t), down : done, down : one, pronounce : once, renounce : once, town : one, vow'd : blood, wow'd : blood(Butler), crowne : one(Lovelace), down : one(Cowley), drown : one(Vaughan), loud : blood(Hannay), gown : none(Hall), crown : won(Cotton), crowd : blood, proud : floud, town : undone(Dryden-1), aloud : blood, clouds : floods, proud : flood(Dryden-2), aloud : blood, clouds : floods, crowd : blood, endow'd : blood, town : won(3t), vow'd : blood(Dryden-3), aloud : blood, crown : won, down : one(2t), town : one, town : won(Dryden-4), crown : done(2t), down : done(2t), down : won, renounce : once(Flatman), down : none, down : won, renounce : once(Shadwell), town : done, town : undone(Wilmot), crown : none, renoun : won(Sheffield), renown : undone(Otway), down :

none, renounce : once(Blackmore), aloud : flood, crown : won, down : won(Duke), crowd : flood, crown : done, round : blood(Garth), renown : won(Stepney), cloud : blood, cloud : flood(King), crown : done, crown : none, crown : one, crown : won, down : one, frown : done, pronounce : once, renown : won, town : one(Prior), crown : won(Pomfret), allow'd : blood, crown : done(2t), down : undone(Granville), aloud : flood, crowd : blood, renown : won(2t), town : done(Yalden), crown : won(Rowe), renown : won(Addison), cloud : blood, loud : flood, shroud : blood, shroud : flood (Watts), aloud : blood, crowd : blood(2t), town : one(Somerville), aloud : flood(Hughes), cloud : blood, clouds : flood, down : one, down : won(Yung), drown : one(Fenton), cloud : flood, clouds : floods(3t), crown : won(Diaper), clouds : floods(3t), crowd : flood(Broome), crowd : flood(2t), town : one(Pitt), aloud : blood, crowd : blood(2t), crowd : flood, crown : won, disallow'd : blood, endow'd : flood, frown : won(West), town : none(Harte), rown : done(2r)(Boyse), renown : won(2t) (W. Whitehead), cloud : flood(Gray), cloud : blood(Cambridge), frown : none(Cooper), crowd : blood, renown : won(2t)(Wilkie), town : one(Mason), town : none(Cowper), aloud : blood, shroud : blood, vovd : blood(Mickle), proud : blood, renoun : won(Chatterton), aloud : blood, shroud : blood (Shelley).

ME/u:/ : ME/o:/(> [u]), ME/u:/ : ME/o:/(> [ʌ]) は PE では [au] : [u], [ʌ] の不完全韻であるが, EModE 期以降見出されている。これらは ME/o:/(> [u]), ME/o:/(> [ʌ]) の本来の ME/o:/ に依存するものであり, 実質的には ME/u:/ : ME/o:/ と同じ処理になる。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 4, § 18, § 33, § 36, § 37, § 38)によると, good, foot, stood, wood には本来の ME/o:/ が, blood, flood ; done, doth ; none, once, one にも ME/o:/ が並存していた。once, one, none には, ME 期に, 正規の ME/ɔ:/ の他に, ME/o:/ 異形が並存していた。これらの語の PE[ʌ] は語頭の ME/ɔ:/ の前に渡り音 [w] が発生し, [wo:n] > GVS > [wu:n] > 短母音化 > [wun] > 平唇化 > [wʌn] の過程を経たものである。[wʌn] は既に16-7世紀に見られるが, これは方言的又は卑俗的であり, 1700年頃まで標準英語には受け入れられていない。alone, stone 等では本来の ME/ɔ:/ が反映されている。

#### 2. 4. 1. 11. ME/u:/([w, y]\_\_\_\_) : ME/o:/

you : do(Sidney), you : thereto, you : two(Lyly), you : two(Drayton), you : do, you : thereto, you : too, you : two(Shakespeare), you : do(2t), you : doe(12t), you : too(6t), you : two(3t), you : undoe(Donne), you : too(Jonson), you : too, youth : forsooth(Marston), you : two(Drummond), you : two, youth : doth(Kynaston), you : doe(3t)(Browne), you : two(Browne), you : do(3t), you : doe(3t), you : shooe, you : thereto, you : too (4t), you : two(3t)(Herrick), you : do, you : too(Chalkhill), you : doe(Habington), you : do(2t), you : too(6t), you : two(Waller), Youth : sooth(Milton), you : do, you : too(Suckling), you : do(10t), you : too(6t), you : two(Cartwright), you : too(Butler), you :

do, you : too(Cleveland), you : do(2t), you : too, you : two(Denham), You : doe(2t), You : too(6t),  
 You : two(Crasahw), you : doe, you : too(Lovelace), you : do(12t), you : too (10t), you : two(2t),  
 you : who(Cowley), you : do, you : who(Sherburne), you : do, you : to(Chamberlayne), you : through,  
 you : too(3t)(Brome), you : do(Marvell), you : adoe, you : do(2t), you : do(4t), you : to(Cotton),  
 you : do(2t), you : too(10t)(Katherine), you : ado, you : do(2t), you : doe, you : too(5t)(Dryden-1),  
 you : do, you : too(4t)(Dryden-2), you : do, you : too(Dryden-4), you : do(Dillon), you : through,  
 you : too(3t)(Sprat), you : too(2t)(Dorset), you : do, Youth : forsooth(2t)(Shadwell), you : do(3t),  
 you : too (2t), youth : proof(Flatman), you : do(4t), you : to, you : too(2t)(Wilmot), you : do  
 (Sheffield), you : to(3t), you : two(Duke), you : do, you : outdo, you : too(Stepney), you : too(Walsh),  
 you : do(3t), you : shoe, you : too(King), you : too(Prior), you : do(2t), you : too(2t)(Pomfret),  
 you : too(Granville), you : do(2t), you : to, you : too(5t), you : Two(2t), Youth : Tooth(Swift), you :  
 too(Congreve), you : do, youth : smooth(Yalden), you : to(Rowe), you : do(2t), you : through,  
 you : too(2t), you : two(Watts), you : do (3t)(Somerville), you : do(Parnell), you : thro'(Diaper),  
 you : do(3t), you : too, youth : tooth(2t)(Gay), youth : uncouth(Tickell), you : do(4t), you : too(2t),  
 you : Two, Youth : Tooth(Pope), you : do(4t), you : through, you : too(3t), you : two, you : unto,  
 youth : forsooth(Byrom), you : too(Green), you : do, you : too(3t)(Dodsley), you : do(2t), you : shoe,  
 you : too, you : undo(Jenyns), youth : sooth(Brooke), you : do(Harte), you : do (P. Whitehead),  
 you : two(Armstrong), you : undo, youth : forsooth(Moore), you : do, you : two(Thompson),  
 you : too(Shenstone), gules : fools, you : do(2t), you : too(2t), you : two(W. Whitehead),  
 youth : sooth, youth : tooth(Gray), youth : do(3t)(Cambridge), you : do(Cawthorn), you :  
 too(Smart), youth : uncouth(Churchill), you : ado, you : do, you : too, you : two(Cowper), you :  
 ado, you : do, you : too(4t), you : two, youth : tooth, youth : uncouth(2t)(Lloyd), youth : smoothe,  
 youth : sooth, youth : soothe (Beattie), you : too(3t)(Lovibond), you : do(Logan), you : do, you :  
 too(4t)(Chatterton), you : do(2t), you : two, you : who(Crabbe), gules : tools, you : two, you : undo,  
 youth : smooth(Wordsworth), you : do(2t), you : through, you : to(2t), you : too(4t), you : two,  
 you : who, youth : uncouth(Byron), you : ado, you : too, you : two, youth : sooth (3t), youth : soothe,  
 youth-out : tooth-out(Keats).

[w, y]\_\_\_\_ : ME/o:/ は, EModE 期以降豊富に見出されており, PE では [u:] に依存する完全韻  
 であり, なんの問題も生じない。Dobson (1968<sup>2</sup>, §178) によると, you, youth は少なくとも,  
 EModE 期には ME/u:/, ME/u/ (再強勢 > [ju:]), ME/y:/(=ME/iu/) の三つの異形が並存していた。  
 従って, you > [u:] : do=[u:] の完全韻となる。



## 2. 4. 1. 12. ME/u:/ (&gt;[u]&gt;[ʌ]) : ME/o:/

enough : proof(3t), enough : through, rough : hoof, rough : proof, tough : proof(2t)(Butler),  
 enough : proof(Brome), enough : Hoof, enough : proof(2t), enough : Roof(2t)(Cotton),  
 enough : Proof(Dryden-2), enough : proof(Prior), enough : proof(Fenton), enough : proof (Gay),  
 enough : woof(Gray), enough : proof(Cooper), enough : proof(Mason), enough : proof(2t),  
 tough : proof(Cowper), enough : proof(2t), enough : reproof(Crabbe), enough : hoof, enough :  
 proof(Byron).

ME/u:/ > [u] > [ʌ] : ME/o:/ は PE では [ʌ] : [u:] の不完全韻であるが, EModE 期以降散見されている。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 39) によると, enough, rough, tough には ME/u:/ 異形が並存していたので, ME/u:/ > [u] > [ʌ] : ME/o:/ は ME/u:/ : ME/o:/=[u:] に依存する完全韻となる。これら三語の PE[ʌ] は ME/u:/=[u:] > [u] > [ʌ] に由来する。

2. 5. 近似融合<sup>7</sup>

EModE 期には I) 融合 (1. ME/a:/ と ME/ai/ 2. ME/ɔ:/ と ME/ɔu/ 3. ME/ɛ:/ と ME/e:/ 4. ME/ɛu/ と ME/eu/), II) 近似融合 (1. ME/a:/ と ME/ɛ:/ 2. ME/ai/ と ME/ɛ:/ 3. ME/i:/ と ME/ɔi/) と呼ばれる現象が生じている。I) の場合には融合した音韻の押韻率は EModE 期以降徐々に高くなり, その近似曲線は右肩上がりであるのが特色であった。一方, II) の場合には近似融合したとおぼしき音韻の押韻率は ModE 期には極めて低く, その近似曲線も融合の場合のように右肩上がりではなく, 相変わらず低い数値のまま推移していたというのがその特色であった。ME/a:/ と ME/ɛ:/ の融合は史的音韻論の難問の一つであるが, 筆者は一連の脚韻研究により, a) ME/a:/ は ME/ai/ と 17 世紀半ばに [ɛ:] で融合するが, b) ME/ɛ:/ とは融合しなかったと指摘してきた。a) の場合には ME/a:/ と ME/ai/ の脚韻が 17 世紀以降見出され, その押韻率も徐々に高くなり, その近似曲線も右肩上がりであった。一方, b) の場合には両者の押韻率は極めて低く, その近似曲線は右肩上がりではなく依然として低いまま推移していた。同様に, ME/ɔ:/ : ME/ɔu/, ME/ɛ:/ : ME/e:/, ME/ɛu/ : ME/eu/ は既に EModE 期以降のどの詩人にも一様に多く見出され, その近似曲線も右肩上がりであった (平郡:2012)。近似曲線の出方により, ある音韻と他の音韻が融合しているかそうでないかがある程度推察可能である。ME/u:/ : ME/ɔu/ の押韻率の近似曲線は b) の出方をしている : ME/u:/ : ME/ɔu/ は, EModE 期以降 -ow- で視脚韻を構成することもあり, 押韻している。しかし, その押韻率は低く, 一時期高くなるものの, その後は低いままで推移し, LModE 期では更に低くなっている。近似曲線の出方からすれば ME/u:/ と ME/ɔu/ は融合していないといっ

てよい。

### 3. 結論

ME/u:/ と ME/ɔu/ の融合を考察するのに、何らかの手掛かりを与えてくれる証拠は以下の通りであり、

1) ME/u:/ : ME/o:/(crown : noon, owl : tool) は EModE 期以降、特に Scotland、北部出身者に見出されている。これらは標準英語での ME/u:/=[uw] : ME/o:/=[u:] の類韻、若しくは北部方言での [u:] に依存する完全韻である。

2) ME/u:/ : ME/ɔ:/ (allow : so, down : bone), ME/u:/ : ME/ɔ:/ (> [ɔ]) (down : gone), ME/u:/ : ME/ɔ:/ (crown : on), ME/u:/ ([y]\_\_\_\_) : ME/ɔ:/ (you : go), ME/u:/ (> [ʌ]) : ME/ɔ:/ (touch : approach) は EModE 期以降見出されている。これらは標準英語での ME/u:/=[ou] : ME/ɔ:/=[ɔ:] (16c) 又は [o:] (17c 後半) の類韻、若しくは北・中・東部方言での ME/u:/ : ME/ɔ:/=[u:] に依存する完全韻の何れかである。

3) ME/u:/ : ME/ɔu/ (allow : grow, crown : overthrown), ME/u:/ ([y]\_\_\_\_) : ME/ɔu/ (you : know) は EModE 期以降どの詩人にも一様に多く見出されている。これらは標準英語での ME/u:/ : ME/ɔu/=[ou] : [ɔu] (16c) 又は [o:] (17c) の類韻か、Norfolk, Suffolk, Essex, Kent 方言での [ou] に依存する完全韻、又は北部方言での ME/u:/=ME/ɔu/=[u:] に依存する完全韻かの何れかである。

4) 近似曲線の出方からすると、ME/u:/ と ME/ɔu/ は融合しないと仮定したほうが資料に合致する。

これらの証拠を踏まえると、ME/u:/ と ME/ɔu/ の融合に関する最も蓋然性の高い推論は次のようなものであろう。

i) 標準英語では自由位置の ME/u:/ は ME/ɔu/, ME/ɔ:/, ME/o:/ とは融合しなかった。

ii) ME/u:/ の [u:] > [ou] の変化は16世紀後半までにかなり進行していた。しかし、[ou] が標準英語で広く受け入れられるようになるのは17世紀に入ってからである。

iii) ME/u:/ の [ou] > [ʌu] の変化は17世紀にかなり進行していた。しかし、[ʌu] が標準英語で広く受け入れられるようになるのは17世紀後半からである（但し、ME/u:/ が [ʌu] になったことを示す脚韻上の証拠はない）。

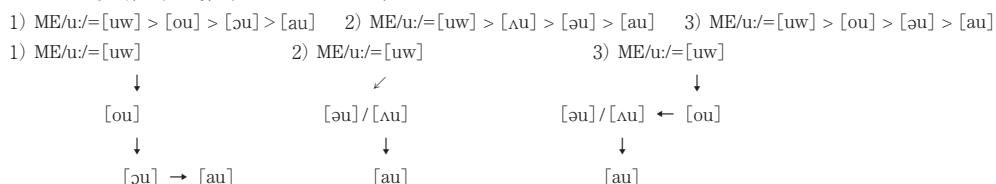
iv) 北・中・東部方言では ME/u:/ と ME/ɔu/ は今日 [u:] と発音され、Norfolk, Kent, Suffolk, Essex では ME/u:/ と ME/ɔu/ は [ou] で融合し、両者は今日 [au], [ʌu] と発音されている。

#### 注

1. 言語音は言語構造の本質からいって、単独では存在しえず、他の音との相対的な関係において存在しうるものであり、個々の単音の発達過程を対象とせず、各時代の音韻組織の解明に向けられるべきである。「ME/u:/ の発達過程について」というテーマは少なくとも推奨されるべきではない。ある特定の音韻を体系から抽出して、その音変化を論ずる場合にも絶えず全体との体系を念頭に置いておかななくてはならない。更に

音声変化（体系にはなんの変化を起こさないもの）と音韻変化（自らの枠の外にまで踏み出し、体系全体に連鎖反応を引き起こすもの）についても厳密に区別することは言うまでもない。

2. それぞれの見解を図式化すると以下ようになる。



1) の見解は Ellis (1869-89, Part 5, p. 293), Wyld (1936<sup>3</sup>, p. 230) に, 2) は Kökeritz (1953, p. 245), Dobson (1968, § 160), Cercignani (1981, § 102) に, 3) は Chomsky-Halle (1968, Chapter 6), 荒木 (1984, p. 112), Lass (1999, p. 102) により提唱されている。

3. 使用テキストは平郡 (2012) を参照。その他の脚韻とは以下のものである。

ME/u:/ : ME/u:/([w, y]\_) (bound : wound, vow : you) は wound, you の本来の ME/u:/ に依存するものである (Dobson (1968<sup>2</sup>, § 4, § 163, § 178))

ME/u:/ : ME/u:/(> [Λ]) (bough : enough, bough : tough) は enough, tough の本来の ME/u:/ に依存するものである (Dobson, 1968<sup>2</sup>, § 39)。

ME/u:/ : ME/a/(bond : hond, fond : land) は ME/a/ の ME/ɔ/ 異形に依存するものである (Dobson, 1968<sup>2</sup>, § 71)。

ME/u:/ : ME/ɔ/(bond : beyond, found : fond) は bound, found によく知られた ME/ɔ/ 異形に依存するものである (OED)。

ME/u:/ : ME/u/(> [Λ], [u]) (downe : rune, town : begun) は ME/u:/ の ME/u/ 異形に依存するものである (Wright, § 172)。

ME/u:/ : ME/au/(about : mought, doubt : fought) は fought, mought の ME/u:/ 異形に依存するものである (Dobson (1968<sup>2</sup>, § 170))。

ME/u:/ : ME/ɛu/(bound : shewd, thou : dew) は ME/ɛu/ の [iu] > [ju:] に依存するものである。

ME/u:/ : ME/eu/(bound : subdewd, now : due) は ME/eu/ の [iu] > [ju:] に依存するものである。

ME/u:/(\_\_[m, p]) : ME/o/:(tomb : doom, room : groom), ME/u:/(\_\_[m, p]) : ME/ɔ/:([w]\_) (tomb : womb) は PE では [u:] の完全韻であり, PE では何の問題も生じない。

ME/u:/(\_\_[m, p]) : ME/u/:(tomb : come, tomb : dumb) は ME/u/ の ME/o/ 異形に依存するものである。 (Dobson (1968<sup>2</sup>, § 18))

ME/u:/(\_\_[m, p]) : ME/eu/:(room : presume, room : fume) は ME/eu/ の [iu] > [ju:], 更に卑語では [j] が消失し [u:] に依存するものである。

ME/u:/([w, y]\_) : ME/ɛu/ (you : dew, you : few) は you の ME/eu/ 異形に依存するものである Dobson (1968<sup>2</sup>, § 4)。

ME/u:/r : ME/eu/r (hour : cure, power : cure) は ME/u:/=[u:] と ME/eu/> [iu] > [ju:] > [u:] に依存するものである。

ME/u:/(> [Λ]) : ME/ɛ/

flourish : cherish, flourish : perish (Spenser-Sonota), flourish : cherish(3t),

flourish : perish, nourish : cherish(2t)(Sidney), flourish : cherish, flourish : perish(Stirling), flourish : cherish, nourish : cherish (G. Fletcher).

ME/u:/> [u] > [Λ] : ME/ɛ/ は PE では [Λ] : [e] の不完全韻であるが, EModE 期以降稀ではあるが見出されている。

I] flourish, nourish には ME/u/ 異形が並存していたので, ME/u:/(> [Λ]) : ME/ɛ/ を ME/u/ : ME/ɛ/ と見た場合には ME/u/ : ME/ɛ/=[Λ] : [ɛ] 又は [e] の類韻となり, ME/u/=[Λ] の証拠となる。

II] Dobson (1968<sup>2</sup>, § 96) によると, ME/u/ を持つ語には Scotland, Somerset, Devonshire で [e] となっている証拠がある。従って, ME/u:/(> [Λ]) : ME/ɛ/ はこれらの方言では ME/u/=[e] : ME/ɛ/=[e] の完全韻となる。Dobson (Vol 1, p. 109) によると, Bullokar には just : rest が見出されており, ME/u/ =ME/ɛ/ は Norfolk, Suffolk, Essex を含む多くの方言で観察される vulgarism である。

III] flourish : cherish, flourish : perish を女性韻 (feminine rhyme) と見なした場合には, この脚韻は ME/u/ : ME/ɛ/=[Λ] : [ɛ] 又は [e] の類韻, 又は [e] に依存する完全韻となる。しかし, EModE 期には詩人は

二音節語の弱音節部 (baner : displeasur, condition : fashion) だけで押韻したり, 強音節部と弱音節部 (lif : pensif) とで押韻する傾向が見られるので, flourish : cherish は女性韻ではなく, -ish に依存する脚韻であるかも知れない。そしてその場合には, これらは ME/u/=[Λ], 又は [e] の証拠とならない。

ME/u/(> [Λ]) : ME/ɔ/(enough : off, tough : off) は ME/u/ の ME/ɔ/ 異形に依存するものである。

4. Chomsky, N. & M. Halle (1968, p. 250) は ME の二重母音を長母音 + 短母音と捕らえているが, Zachrisson (1913) も同様の捕らえ方をしている。伝統的音韻論では, ME の二重母音の第一要素は [-tense] と捕らえるのが普通である。しかし, Hart, Gil は ME/u/ を [ou] と表記しているのに対して, ME/ɔu/ を [ōu] と表記していることを重視し, 我々は ME の二重母音の第一要素は [+tense] であったと捕らえている。
5. a) ME/i:/ : ME/e:/ が EModE 期以降に見出されているが, これらは標準英語での ME/i:/=[i:] : ME/e:/=[e:] の類韻, 若しくは北部方言での ME/i:/ : ME/e:/=[i:] に依存する完全韻のどちらかである。b) ME/i:/ : ME/ε:/ が EModE 期以降見出されているが, これらは標準英語での ME/i:/=[ei] : ME/ε:/=[ε:] (16c) 又は [e:] (17c) の類韻, 若しくは北部方言での ME/i:/ : ME/ε:/=[i:] に依存する完全韻のどちらかである。c) ME/i:/ : ME/ai/ は16世紀後半から17世紀後半にかけて見出されるが, ME/i:/=[ei] : ME/ai/=[ε:i] (16c), [ε:] (17c) の類韻, 若しくは北部方言での ME/i:/ : ME/ai/=[ai], 中部方言での [ei] 又は [ai] の完全韻である (その結果 ME/i:/, ME/ai/ は融合し今日 [ei] と発音されている)。d) ME/i:/ : ME/ɔi/(ME/i:/= ME/ɔi/=[əi] 又は [Λi] の類韻) は16世紀では Spenser と Daniel を除き見出されず, 17世紀になり散見され初め, 17世紀後半-18世紀後半にかけて見出され, 18世紀後半になると再び見出されなくなる。
6. Wyld (1923, p. 128) は Rome の PE[ou] はフランス語の影響であるという。Dobson (1968<sup>2</sup>, § 154) は ME/ɔ/(ME/o/ > 短母音 > ME/ɔ/ > 再強勢 > ME/ɔ:/) に遡るものであるという。OF の長音 o を持つフランス語借用語は, 通常, ME/ɔ/ として借用されたが, 唇音の環境では, しばしば ME/o/ となった。move, prove も OF からの借用語であるが, これらの語の PE[u:] は ME/o:/ に由来するものである。しかし, EModE 期には move にも ME/ɔ/ 異形が並存していた。
7. A という音韻と B という音韻の発音が充分近似しているときには聞き手は音声的には同音と認識する。しかし, 音韻的には同音ではなく依然として示差的であるので, 両音韻は後の時代に再び異なった発達をする。ME/a:/ : ME/ε:/, ME/ai/ : ME/ε:/, ME/i:/ : ME/ɔi/, ME/u/ : ME/ɔu/, ME/au/ : ME/ɔ:/ が近似融合の例である。17世紀後半, ME/ε:/(mead) と ME/a:/(=made) は真正融合ではなく, 近似融合だったので, ME/ε:/(=mead) は18世紀に ME/e:/(=meed) と真正融合しえたのである。

	I (17世紀後半の脚韻)	II (18世紀の脚韻)
meed	ME/e:/=[i:]	ME/e:/
mead	ME/ε:/ } [e:]	ME/ε:/ } [i:]
made	ME/a:/ } [ε:]	ME/a:/= [e:]

ME/u/ : ME/ɔu/ は16世紀半ばに散見され, 17世紀後半から18世紀前半にかけて見出されるものの, 19世紀から再び稀になる。ME/u/ : ME/ɔu/=[əu] : [Λ:u] の類韻であり, [ə] と [Λ] は音声的には近似しているが, 全く同音ではない。音声的には融合するが, 音韻的には融合していない。1800年頃, ME/u:/=[Λu] > [au] に, ME/ɔu/ は [ou] になり, 再び両者は示差的となった。

#### 参考文献

Dobson, E. J. 1968<sup>2</sup>. *English Pronunciation 1500-1700*. 2 Vols. Oxford: Oxford Univ.Press.

平郡秀信 2010 『大母音推移 - 長母音の場合 -』一誠社.

\_\_\_\_\_. 2011 『大母音推移 - 単母音の場合 -』一誠社.

\_\_\_\_\_. 2011 『大母音推移 - 二重母音の場合 -』一誠社.

\_\_\_\_\_. 2012 『大母音推移』一誠社.

\_\_\_\_\_. 2015 『スペンサーの発音』一誠社.

Kökeritz, H. 1953. *Shakespeare's Pronunciation*. New Haven & London: Yale Univ. Press.

Wyld, H. C. 1936<sup>3</sup>. *A History of Modern Colloquial English*. Oxford: Basil Blackwell.